(仮)学びの松戸モデル（松戸市教育振興基本計画・第１期）（案）のパブリックコメント手続きで提出のあった意見と市の考え方

（仮)学びの松戸モデル（松戸市教育振興基本計画・第１期）（案）に関するご意見を募集したところ、13名の方からご意見をいただきました。
お寄せいただきましたご意見と、そのご意見に対する本市の考え方について、次のとおりまとめましたので公表します。

パブリックコメント手続実施結果の概要

１　意見募集期間　　令和8年1月19日(月曜)から2月17日(火曜)まで
２　意見提出者数　　13名
３　意見総数　　81件
４　意見内容及び回答　　下表のとおり

NO.	提出意見	該当箇所	該当ページ	市の考え方	計画の修正
1	目標4 多様な教育ニーズの対応と社会的包摂 基本施策8 多文化理解と帰国・外国人児童生徒への支援の充実 施策22 帰国・外国人児童生徒への支援を充実させます と、ありますが、先日小学校入学説明会に参加させていただきました所、教員の突然な退職により人員が不足している点を真っ先に話題に揚げられておりました。 目標8　指導体制・教育環境の整備 基本施策15　子供たちが適切な教育を受けることができる体制や環境の整備 施策42　教職員の働き方改革を進め、働きやすい勤務環境を整備します とありますが、多方面で教育以外の日々の対応に追われていれば 肝心な日本人生徒への対応が十分行なわれているのかと、とても不安です。 外国人への対応を十分に行なうよりもまず日本人生徒が日本社会で今後生活し、成長していく基盤となるよう、将来東京都へ就職納税するのではなく、松戸市に納税してもらえるような、松戸市を発展させていく人材を育成するという部分に繋がるのではないかと、一市民として考えます。	施策22（帰国・外国人児童生徒への支援を充実させます） 施策42（教職員の働き方改革を進め、働きやすい勤務環境を整備します）	p.53、p.77	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。教員の退職による人員不足へのご不安は、学校現場の状況を踏まえた切実なご指摘として受け止めております。本市では、外国にルーツを持つ児童生徒への支援を進めつつも、全ての子供に必要な教育が行き届くことを重視しています。こうした支援が日本人児童生徒への対応を損なうことはなく、むしろ多様なニーズに対応できる教育体制の強化につながるものと考えております。また、教職員の働き方改革や業務負担の軽減に取り組み、教育に専念できる環境整備を引き続き進めてまいります。	なし
2	目標9 魅力ある教育施設の整備 基本施策16 より質の高い安心安全で魅力ある教育施設の構築 施策47 小・中学校施設の老朽化対応及び学習環境の整備を進めます とありますが、現在どんどん少子化が進んでおり子供の数が年々減る一方であるため、教育施設の数を統合するなり見直しがあってもいいのではないかと考えます。 教員の数も足りない、順番に学校施設を新しくする費用が嵩むなどと考えれば学校数を見直すという意見も多方面から募って、学区を見直すなりすれば改善される余地があると考えます。 今回の(案)である環境の整備が、書類上だけでなく具体的に施されるのを願っています。	施策46（適正規模・適正配置を含め、これからの魅力ある学校施設のあり方の検討を進めます） 施策47（小中学校施設の老朽化対応及び学習環境の整備を進めます）	p.80-81	貴重なご意見をお寄せいただきありがとうございます。少子化の進行や教員不足を踏まえ、学校数や学区の見直しを含めた検討が必要ではないかとのご指摘は、重要な視点として受け止めております。本計画では、施設の老朽化対策に加え、適正規模・適正配置について中長期的な視点で検討を進めることとしており、教育環境の質を確保しながら持続可能な学校づくりを目指しています。いただいたご意見も踏まえつつ、施設整備が実効性のあるものとなるよう、着実に取り組んでまいります。	なし
3	「Society5.0の到来」 Society5.0を”サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させ、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会”として紹介し、政府が目指す未来社会像を「一人ひとりが多様な幸せ（well-being）を実現できる社会」と説明しています。この記述に対し、次のような視点を補足しておくと、本計画の方向性が一層明確になると思われます。 地域協働のプラットフォームについて 現状の記述： Society5.0におけるデジタル技術による社会変革の説明 考察すべき視点： デジタル技術と人間同士のつながりの両立 本章では主にデジタル技術による社会変革が示されていますが、Society5.0の実現にとって人間同士のつながりも欠かせません。政府のSociety5.0の定義には「人間中心の社会」という言葉が含まれているにもかかわらず、本計画では技術的な側面が強調され、人間関係の構築という側面がやや弱い印象を受けます。 山口県の事例では、学校運営協議会を核とするコミュニティ・スクールにおいて、保護者や住民が単なる「お手伝い」ではなく、学校運営の当事者として参画しています。その結果、学校が地域の学び場や交流拠点となり、子どもは地域に見守られている安心感や郷土への愛着を育んでいます。このような「つながり」は、デジタル技術だけでは生まれません。 松戸市の現状を考えると、学校運営協議会を核とする形での運営は令和7年度で1校のみと聞いています。Society5.0の「人間中心」という理念を実現するには、ICT活用と併せて、こうした協働のプラットフォームを整備することが不可欠ではないでしょうか。デジタル技術は「つながり」を強化するツールであり、そのツールを活用する「つながり」の基盤がなければ、Society5.0の真の実現は難しいと考えられます。 検討すべき問い： 松戸市では、デジタル技術の導入と並行して、どのように地域協働のプラットフォームを構築していくのか？コミュニティ・スクールの設置を加速させる具体的なロードマップはあるのか？ 福祉・医療・行政の連携によるセーフティネットについて 現状の記述： Society5.0におけるデジタル活用の重要性 考察すべき視点： デジタル格差や家庭内の困難を抱える子どもたちへの支援 Society5.0ではデジタル活用が強調されていますが、ここに重要なパラドックスがあります。デジタル技術が進化すればするほど、その技術にアクセスできない、あるいは活用できない人々との格差が拡大する可能性があるのです。 ヤングケアラー支援や貧困対策など、学校だけでは解決できない課題が存在します。これらの課題は、デジタル技術の導入だけでは解決できません。むしろ、デジタル技術が進化する中で、こうした困難を抱える子どもたちがさらに取り残されるリスクがあります。 スクールソーシャルワーカーが学校と福祉・医療機関を橋渡しする仕組みを強化し、訪問相談員が家庭に出向くアウトリーチ型支援を導入することで、デジタル格差や家庭内の困難を抱える子どもたちにもきめ細かい支援を提供できるようになります。これは、Society5.0が掲げる「一人ひとりが多様な幸せを実現できる社会」を実現するための不可欠な要素です。 検討すべき問い： 松戸市では、デジタル技術の導入と並行して、どのようにセーフティネットを強化していくのか？スクールソーシャルワーカーの配置や訪問相談員の体制は十分か？ 社会資源を活用した学びの拡張について 現状の記述： Society5.0の文脈での教育のデジタル化 考察すべき視点： デジタルとアナログの両立による学びの質の向上 本計画はSociety5.0の文脈で教育のデジタル化を示していますが、ここで重要なのは、デジタル技術が「学びのすべて」ではないということです。デジタル技術は強力なツールですが、実際の体験や人との対話、本物に触れる経験など、デジタルだけでは得られない学びも存在します。 愛知県安城市では、新しい図書館を単なる「本を借りる場所」ではなく、文化拠点として整備しました。その結果、来館者数が従来の2倍以上、学校団体向け貸出冊数が約2.8倍に増えたと報告されています。これは、デジタル技術とアナログの体験を組み合わせることで、学びの質と量の両方が向上した事例です。 松戸市には、市内4大学や博物館・図書館などの豊富な社会資源があります。これらを教育と結び付けることで、デジタルだけでは得られない多様な知識や体験を児童生徒に提供し、学びのモチベーションとwell-beingを高めることができます。Society5.0の実現には、デジタル技術とアナログの体験	第1章　第6節(1)Society5.0の到来	p.3-4	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。Society5.0に関するご指摘のとおり、デジタル技術の活用に加えて、人と人とのつながりや地域協働の重要性を意識することは、今後の教育において大切な視点と認識しています。本計画では、ICTの活用と併せて、コミュニティ・スクールや地域学校協働活動の推進を位置付けており、地域との連携を生かした学びの環境づくりを進めてまいります。また、福祉・医療との連携による支援体制の充実にも努め、全ての子供が安心して学べる環境を整えてまいります。	なし

NO.	提出意見	該当箇所	該当ページ	市の考え方	計画の修正
4	「少子化・人口減少の進行」 現状の記述： 少子化・人口減少が教育に与える影響についての記述 考察すべき視点： 教育の質向上が人口減少対策になるという逆転の発想 少子化・人口減少について記述されていますが、この課題に対し、地域の教育力そのものを高めることで、子育て世代の転入を促進する視点も重要です。少子化・人口減少は「与件」として受け入れるのではなく、「教育の質を高めることで解決できる課題」として捉え直すことが必要ではないでしょうか。 福岡県北九州市では、教育の質を高めることで人口増加を実現した事例があります。これは、教育が「子育て世代の転入を決定する重要な要因」であることを示しています。松戸市でも、教育の質を可視化し、子育て世代に「松戸で子育てしたい」と思わせる教育ブランディング戦略を明確にすることで、少子化対策と教育振興を同時に進められるのではないでしょうか。 しかし、ここで重要なのは、「教育の質」をどのように定義し、どのように可視化するかです。単に学力テストの結果だけでなく、子どものwell-being、教職員の働きがい、地域とのつながりなど、多面的な指標が必要です。また、教育の質を高めることで、どのように転入を促進するのか、具体的な戦略も必要です。 検討すべき問い： 松戸市では、教育の質をどのように定義し、可視化するのか？教育の質を高めることで、どのように子育て世代の転入を促進するのか？教育ブランディング戦略はどのように構築するのか？	第1章 第7節 (1)総人口・外国人人口・(2)子供の人口	p.10-16	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。教育の質の向上が子育て世代の転入促進につながるとのご指摘は重要な視点として受け止めています。本市では、学力面だけでなく、子供の安心感や主体性、地域とのつながりといった多面的な力を育むことを重視しており、こうした総合的な教育環境の充実が結果として地域の魅力向上につながるものと考えています。また、現状や成果を丁寧に把握しながら、引き続き教育の質の向上に取り組み、関係機関と連携しながら子育てしやすいまちづくりにもつなげてまいります。	なし
5	「グローバル化の進展」 現状の記述： グローバル化が教育に与える影響についての記述 考察すべき視点： 多文化共生がグローバル化に対応する鍵 グローバル化について記述されていますが、多文化共生の視点をより具体化すべきです。グローバル化は、単に「英語を話せるようになる」ことではなく、「多様な文化や価値観を理解し、尊重し、協働できる」ことが重要です。 横浜市では、外国にルーツを持つ子どもたちの支援を充実させた結果、彼らの進学率が向上し、地域の多様性が強みとなっています。これは、多文化共生が「課題」ではなく「強み」になることを示しています。松戸市でも、多様な背景を持つ子どもたちが互いの文化を尊重し、協働できるカリキュラムを設計することで、グローバル化に対応した教育を実現できると考えます。 しかし、多文化共生を実現するには、単に「多様性を受け入れる」だけでなく、「多様性を活かす」視点が必要です。多様な背景を持つ子どもたちが、それぞれの強みを活かし、協働して課題を解決する経験を通じて、真のグローバル人材を育成できるのではないでしょうか。 検討すべき問い： 松戸市では、多文化共生をどのように具体化するのか？多様な背景を持つ子どもたちが、それぞれの強みを活かし、協働できるカリキュラムはどのように設計するのか？外国にルーツを持つ子どもたちへの支援体制は十分か？	第1章 第6節(2)グローバル化の進展 施策21（児童生徒の多文化理解を進めます） 施策22（帰国・外国人児童生徒への支援を充実させます）	p.4-5、p.52-53	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。多文化共生をグローバル化への重要な視点として捉えるご指摘は、今後の教育において大切な視点と受け止めています。本市では、外国にルーツを持つ子供への支援や多文化理解の促進を計画に位置付けており、多様な価値観を尊重し合う学びの環境づくりを進めています。引き続き、子供同士が協働し、それぞれの強みを生かせる教育の充実に取り組み、地域の多様性が強みとなるよう努めてまいります。	なし
6	第1章第7節「松戸市の教育を取り巻く現状と課題」 現状の記述： 松戸市の教育を取り巻く現状と課題の整理 考察すべき視点： データに基づく課題の可視化とPDCAサイクルの加速 現状と課題が整理されていますが、データに基づく課題の可視化をより進めるべきです。課題を「感じる」だけでなく、「数値で見える化」することで、課題解決のスピードが格段に上がります。 東京都では、教育に関する各種データをダッシュボード化し、課題を定量的に把握しています。これにより、課題を早期に発見し、迅速に対応できるようになっています。松戸市でも、不登校率、いじめ認知件数、学力調査結果などを時系列で可視化し、PDCAサイクルを加速させる仕組みを構築することで、課題解決のスピードを上げられるのではないでしょうか。 しかし、データを可視化するだけでは不十分です。データから「何を読み取るか」「どのように活用するか」が重要です。また、データを可視化することで、教職員の負担が増えるのではなく、むしろ減るような仕組みが必要です。AIを活用したデータ分析により、教職員がデータから課題を発見し、対応策を考える時間を創出できるのではないでしょうか。 検討すべき問い： 松戸市では、どのようなデータをどのように可視化するのか？データを可視化することで、どのようにPDCAサイクルを加速させるのか？AIを活用したデータ分析はどのように進めるのか？	施策10（安心感をもって学べる環境の充実を図ります（いじめ防止対策）） 施策18（不登校児童生徒の状況に応じた支援を充実させます） 施策41（教育データの分析・利活用を推進します）	p.41-42、p.48-49、p.75-76	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。データに基づく課題の可視化やPDCAサイクルの確実な運用は、教育の質向上に向けて重要な視点であると認識しています。本市でも、児童生徒の心理状態に関する情報や学力データなどを適切に把握し、教育データの利活用を推進することを計画に位置付けております。今後は、教職員の負担に配慮しつつ、効率的にデータを活用できる仕組みづくりを進め、課題の早期把握と対応の充実に努めてまいります。	なし
7	第2章第1節「松戸の教育のめざす姿」 現状の記述： 「主体的に行動し、人生を切り拓く（自立）」「挑戦」などの記述 考察すべき視点： エージェンシー（変革を起こす力）の育成 教育のめざす姿が示されていますが、エージェンシー（変革を起こす力）の育成をより明確にすべきです。OECDが提唱する「エージェンシー（Student Agency）」は、単に「主体的に学ぶ」だけでなく、「自らが環境や社会に働きかけて変革する（Co-agency）」という視点を含んでいます。 松戸市の計画では「主体的に行動し、人生を切り拓く（自立）」や「挑戦」が掲げられていますが、これは「個人の学習態度」に留まっている印象を受けます。OECDの「ラーニング・コンパス2030」では、生徒が教師や地域と協働し、責任ある行動で「新たな価値を創造する」ことが求められています。 鳥取県南部町では、中学生が町長に対して「ゴミの不法投棄を減らすために公共ゴミ箱を増やす」「ホタルを守るために看板を設置する」といった具体的な政策提言を行い、実際に実現されることで「自分たちの手で社会を変えられる」という実感を育んでいます。これは、単なる「調べ学習」や「発表」を超えた、真のエージェンシーの育成です。 松戸市でも、「主体的に学ぶ」だけでなく、「学んだことを使って地域の課題を解決し、社会を変える経験」をカリキュラムに組み込むことで、真のエージェンシーを育成できると考えます。 しかし、これを実現するには、単にカリキュラムに組み込むだけでなく、地域や行政が「子どもの提案を本気で検討する」という姿勢が必要です。 検討すべき問い： 松戸市では、エージェンシーをどのように定義し、育成するのか？地域課題解決型の探究学習をどのようにカリキュラムに組み込むのか？子どもの提案を本気で検討する仕組みはどのように構築するのか？	第2章 第1節 松戸の教育のめざす姿	p.25-26	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。子供が自ら学びを広げ、周囲と協働して社会に働きかける力（いわゆるエージェンシー）は、これからの教育において重要な視点と認識しております。本市では、主体性や協働性を育む学びを教育のめざす姿として位置付けており、探究的な学習や地域との連携を生かした学びの機会の充実を図っていく考えです。いただいたご指摘も踏まえ、子供が地域や社会の課題に向き合い、仲間と協力して解決に取り組む経験を積めるよう、教育環境の充実に引き続き努めてまいります。	なし
8	第2章第2節「基本理念」 現状の記述： 「ことばを育み 人がつながる 学びの松戸」という基本理念 考察すべき視点： 協調的ウェルビーイングの指標化 基本理念として「ことばを育み 人がつながる 学びの松戸」が掲げられていますが、協調的ウェルビーイングの指標化を追加すべきです。国の第4期計画では、自己肯定感などの「獲得的要素」に加え、人とのつながりや利他性といった「協調的要素」のバランスを重視しています。 従来の幸福感は「自分が何かを達成した」「自分はすごい」という「獲得的要素」が中心でした。しかし、日本の文化やこれからの社会では、「人とのつながり」や「誰かの役に立っている感覚」も幸福の重要な要素です。これを「協調的ウェルビーイング」と呼びます。 松戸市の指標は「自分にはよいところがある（自己肯定感）」などが中心で、「人の役に立っていると感じる」「地域の人と協力することに喜びを感じる」といった、関係性の中での幸福（協調的幸福）を測る具体的な指標が不足している可能性があります。 以下のような質問項目を目標（KPI）に加える視点が重要です： - 「自分だけでなく、まわりの人も楽しい気持ちでいると思うか」 - 「大切な人を幸せにできていると思うか」 - 「地域や社会のために役立つことをしたいか」 自分一人の勝ち負けだけでなく、「周りと一緒に幸せになる力」をどう育て、どう測るかという視点が、いじめ防止や孤立対策の観点からも重要になります。 検討すべき問い： 松戸市では、協調的ウェルビーイングをどのように定義し、測定するのか？「つながり」の理念をどのように具体化するのか？協調的ウェルビーイングを育成するためのカリキュラムはどのように設計するのか？	第2章 第2節 基本理念	p.27	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。人とのつながりや利他的な関わりから得られる協調的な幸福感は、これからの社会で重視される視点であり、本市の教育においても重要な要素と認識しております。本計画の基本理念では、ことばを育み、人がつながる学びを大切にしており、地域や仲間との関わりを生かした学びの在り方についても、今後さらに充実を図っていく考えです。いただいたご意見も参考としながら、子供が互いを尊重し、共に成長できる教育環境づくりに引き続き努めてまいります。	なし

NO.	提出意見	該当箇所	該当ページ	市の考え方	計画の修正
9	第2章第3節「基本的な考え方」 現状の記述： 基本的な考え方の提示 考察すべき視点： AIを活用した学びの拡張とエージェンシーの育成の統合、そして現状の未整備 基本的な考え方が示されていますが、AIを活用した学びの拡張を明確にすべきです。生成AIの登場により、教育のあり方が大きく変わろうとしています。しかし、AIは「人間を代替するもの」ではなく、「人間の能力を拡張するもの」として捉えるべきです。 松戸市の現状を確認すると、以下の点が明らかになりました： 1. 生成AI活用ガイドラインが未整備：松戸市では生成AI活用ガイドラインが未策定です。近隣の船橋市では「生成AIの利活用ガイドライン」を定めており、令和8年度からの児童生徒利用を予定しています。松戸市でも同様のガイドライン策定とパイロット校での試行導入が急務です。 2. 生成AIの実践的活用は導入検討段階：松戸市の公立学校で生成AIを使っているという公表情報は、現時点では確認されていません。近隣の柏市では「生成AIによる悩みチャット相談」を試験導入し、生徒の満足度93.6%という結果が出ています。松戸市でも同様のパイロット導入を検討すべきです。 3. AIリテラシー教育が未整備：AIの倫理、著作権、フェイクニュース等についての授業が未整備です。文部科学省ガイドラインで義務教育段階のAI利活用に関する指針が公開されていますが、松戸市での具体的なカリキュラム化は未着手です。 松戸市独自の「言語活用科」で培った論理的思考力を活かし、生成AIをディスカッションパートナー（壁打ち相手）として活用することで、論理的思考力をさらに高められます。AIに対して「この課題の解決策のメリット・デメリットは？」と問いかけることで、提案の質を高めることができます。 また、AIと協働して地域課題を解決するプロジェクトを導入することで、エージェンシーの育成とデジタルリテラシーの向上を同時に実現できます。例えば、松戸市のオープンデータをAIに読み込ませ、人間では気づきにくい地域の課題や傾向を発見させ、その課題を解決する政策提言を作成するプロセスを組み込むことができます。 しかし、AIを活用する際には、AIの倫理的な使い方や、AIに依存しすぎないバランスも重要です。AIは「考える力」を奪うのではなく、「考える力を高める」ツールとして活用すべきです。 具体的な提言： - 生成AI活用ガイドラインの策定：船橋市のように、文部科学省ガイドラインを参照しつつ、松戸市独自の生成AI使用ポリシー（校務・授業・家庭学習それぞれ）を令和8年度の導入を見据えて整備。利点とリスクを明確にし、教職員・保護者向け研修を行う。 - 生成AI活用のための市内モデル校の設置：柏市等のような相談型AIや教材生成AIなどをお試しできるモデル校を複数選定し、利用ルール・指導方法を試行。 - AIリテラシーとモラル教育のカリキュラム化：生徒・教員両方に、AIの倫理、著作権、フェイクニュース等についての授業を設け、適切な活用を育成。 - AIチャット相談等の心のケア領域への展開：柏市のような実績を参考に、小中学校で生徒の悩み相談AIを試行。人手での相談ではカバーしきれない要素を補う。 検討すべき問い： 松戸市では、生成AI活用ガイドラインをいつまでに策定するのか？生成AI活用のためのモデル校はどのように選定するのか？AIリテラシー教育はどのようにカリキュラム化するのか？AIと協働して地域課題を解決するプロジェクトはどのように設計するのか？	第2章 第3節 基本的な考え方	p.28	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。AIの活用が教育の在り方に大きな影響を与えるとのご指摘は重要な視点として受け止めております。本市でも、ICTを活用した学びの充実や教育データの利活用を計画に位置付けており、今後、生成AIを含む新たな技術の活用についても、国の動向や他自治体の事例を踏まえながら検討していく必要があると認識しています。また、AIの特性を理解し、適切に活用するためのリテラシー教育の重要性についても同様に認識しており、子供が思考力や判断力を高めながら学べるよう、教育環境の整備に引き続き努めてまいります。	なし
10	「確かな学力の定着と向上」 現状の記述： 確かな学力の定着と向上に関する施策 考察すべき視点： データ活用による個別最適な学びの即時実現とEBPM（証拠に基づく政策立案）、そして現状の課題 確かな学力の定着について記述されていますが、データ活用による個別最適な学びの即時実現を追加すべきです。GIGAスクール構想により端末整備は完了しましたが、次は「どう使うか」が問われています。 松戸市の現状を確認すると、以下の点が明らかになりました： 1. 学習データの収集は進んでいるが、分析・活用が不十分：研究校ではデジタルドリル、オンライン学習支援システムで理解度に応じた課題提示等の個別化が進められていますが、デジタルドリル等で得られる理解度データを学校間、学年間で比較できる形で収集・分析し、生徒のつまずきや得意分野を可視化する仕組みは未整備です。 2. リアルタイムな個別最適な学びへの反映が限定的：テスト結果を学期末に振り返るのではなく、日々のドリルやアンケートのデータを分析し、その場で指導を改善するサイクルが確立されていません。 3. 自己調整学習（Self-regulated Learning）の視点が不足：子供自身が自分のデータを見て、「自分はこういう時に集中力が落ちる」と気づき、自ら学習を調整する力を育てる視点が不足しています。 端末を配る（GIGAスクール構想）段階は終わり、次は「どう使うか」が問われています。足りないのは、蓄積されたデータ（学習履歴や生活習慣など）を、先生の「勘や経験」だけに頼らず、科学的な根拠（エビデンス）として指導に活かす（EBPM）視点です。 埼玉県戸田市では、成績・出欠管理システムと学習支援システムを連携させた結果、教師が児童のつまずきをすぐに把握でき、事務作業が減って子どもと向き合う時間が増えたと報告されています。これは、データをリアルタイムで分析し、その場で指導を改善することで、学力向上を実現した事例です。 松戸市でも、テスト結果を学期末に振り返るのではなく、日々のドリルやアンケートのデータを分析し、「この子は今日、理解度が落ちているから声をかけよう」「クラス全体でここが苦手だから、明日の授業を変えよう」といった、リアルタイムな「個別最適な学び」への反映を進めるべきです。 また、子供自身が自分のデータを見て、「自分はこういう時に集中力が落ちる」と気づき、自ら学習を調整する力を育てる視点も重要です。これは、自己調整学習（Self-regulated Learning）と呼ばれる、次世代の学びの重要な要素です。 具体的な提言： - 学習データの収集と個別最適化の強化：デジタルドリル等で得られる理解度データを学校間、学年間で比較できる形で収集・分析し、生徒のつまずきや得意分野を可視化。個別指導／リカレント教育へつなげる政策を設計。 - AIを活用した個別最適化学習の試験導入：適応型ドリルや学習アプリを活用して、弱点補強・得意伸長を随時行う。守谷市でのデジタル教科書実証研究にも適応化プラットフォームの活用が含まれる。 - ラーニング・アナリティクス・ダッシュボードの導入：学習履歴を可視化するダッシュボードを各学校に導入。生徒ごとに理解度・進捗を定期的に教員・保護者で共有。 検討すべき問い： 松戸市では、学習データをどのように収集・分析し、指導に活かすのか？リアルタイムな個別最適な学びをどのように実現するのか？子供自身が自分のデータを見て、自ら学習を調整する力をどのように育てるのか？AIを活用した個別最適化学習はどのように導入するのか？	施策1（「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めるため、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させます） 施策38（ICTを活用した学びの支援の充実を図ります） 施策41（教育データの分析・利活用を推進します）	p.33 - 34 、p.73、p.75-76	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。学習データを活用した個別最適な学びや、EBPMの視点による指導の高度化は、これからの教育において重要な取り組みであると認識しております。本市では、授業改善の推進やICTを活用した学習支援、教育データの利活用を計画に位置付けており、学習状況を的確に把握し指導に生かすための環境整備を進めていく考えです。また、教職員の負担に配慮しながら、効率的にデータを活用できる仕組みの検討を進め、子供一人ひとりの理解やつまずきに寄り添った学びの実現に努めてまいります。	なし
11	「言語活用科の充実」 現状の記述： 言語活用科の充実に関する施策 考察すべき視点： 生成AIを活用した言語活動の深化とエージェンシーの育成 言語活用科について記述されていますが、生成AIを活用した言語活動の深化を追加すべきです。生成AIの登場により、言語活動のあり方が大きく変わろうとしています。しかし、AIは「考える力を奪うもの」ではなく、「考える力を高めるもの」として活用すべきです。 松戸市独自の「言語活用科」で培った論理的思考力を活かし、生成AIをディスカッションパートナー（壁打ち相手）として活用することで、論理的思考力をさらに高められます。AIに対して「この課題の解決策のメリット・デメリットは？」と問いかけることで、提案の質を高めることができます。 また、AIと協働して政策提言を作成するプロセスを組み込むことで、言語活用科の成果を社会変革につなげられます。これは、単なる「言語活動」を超えた、真のエージェンシーの育成です。 しかし、AIを活用する際には、AIの倫理的な使い方や、AIに依存しすぎないバランスも重要です。AIは「考える力」を奪うのではなく、「考える力を高める」ツールとして活用すべきです。 検討すべき問い： 松戸市では、生成AIをどのように言語活用科に活用するのか？AIと協働して政策提言を作成するプロセスはどのように設計するのか？AIの倫理的な使い方はどのように指導するのか？	施策3（学習の基盤となる日本語・英語・情報活用等の能力を育みます）	p.35-36	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。生成AIの活用が言語活動の幅を広げ、子供の思考力や表現力の向上につながるとのご指摘は、今後の学びを考えるうえで重要な視点として受け止めております。本市では、言語活用科を通じて論理的に考え、表現する力の育成を重視しており、ICTの活用についても計画に位置付けています。生成AIを含む新たな技術の教育的活用については、国の動向や他自治体の取り組みも参考にしながら、そのメリットや留意点を踏まえた適切な活用方法を検討していく必要があると認識しています。今後も、子供の学びを支える環境づくりの充実に努めてまいります。	なし

NO.	提出意見	該当箇所	該当ページ	市の考え方	計画の修正
12	「探究的な学習の推進」 現状の記述： 探究的な学習の推進に関する施策 考察すべき視点： 地域課題解決型の探究学習とエージェンシーの育成 探究的な学習について記述されていますが、地域課題解決型の探究学習をより具体化すべきです。OECDの「ラーニング・コンパス 2030」では、生徒が教師や地域と協働し、責任ある行動で「新たな価値を創造する」ことが求められています。 鳥取県南部町では、中学生が地域の課題を調査し、政策提言を行うことで、探究学習の成果を社会に還元しています。これは、単なる「調べ学習」や「発表」を超えた、真のエージェンシーの育成です。 松戸市でも、松戸市のオープンデータを活用し、AIと協働して地域課題を発見・解決するプロジェクトを導入することで、探究学習をより実践的なものにできます。例えば、生徒が松戸市のオープンデータ（ゴミ排出量、交通事故、人流データなど）をAIに読み込ませ、人間では気づきにくい地域の課題や傾向を発見させ、その課題を解決する政策提言を作成するプロセスを組み込むことができます。 しかし、これを実現するには、単にカリキュラムに組み込むだけでなく、地域や行政が「子どもの提案を本気で検討する」という姿勢が必要です。また、AIを活用する際には、AIの倫理的な使い方や、AIに依存しすぎないバランスも重要です。 検討すべき問い： 松戸市では、地域課題解決型の探究学習をどのように設計するのか？子どもの提案を本気で検討する仕組みはどのように構築するのか？AIと協働して地域課題を発見・解決するプロセスはどのように組み込むのか？	施策2（探究的な学びを推進します）	p.34-35	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。地域の課題に向き合い、協働して解決に取り組む探究的な学習は、子供の主体性を育む上で重要な視点であると認識しております。本市でも、探究的な学びを推進することを計画に位置付けております。また、AIを含む新たな技術の活用についても、その教育的効果や留意点を踏まえながら、活用の在り方を検討していく必要があると考えております。いただいたご指摘も参考としつつ、子供が地域や社会への理解を深め、学びを実践につなげることができる教育環境づくりに努めてまいります。	なし
13	「ICTを活用した学びの充実」 現状の記述： ICTを活用した学びの充実に関する施策 考察すべき視点： AIを活用した学びの拡張とNext GIGAへの対応 ICT活用について記述されていますが、AIを活用した学びの拡張を追加すべきです。GIGAスクール構想により端末整備は完了しましたが、次は「Next GIGA」として、AIを活用した学びの拡張が求められています。 生成AIを活用した探究学習、AIによる学習支援、AIを活用した評価など、次世代のICT活用を明確にすることで、GIGAスクール構想の次のステップを進められます。しかし、AIを活用する際には、AIの倫理的な使い方や、AIに依存しすぎないバランスも重要です。 また、AIを活用することで、教員の負担を減らし、子どもと向き合う時間を増やすこともできます。AIが事務作業やデータ集計を代行することで、教員は創出された時間を「子供との対話」や「協調的ウェルビーイングの醸成（信頼関係づくり）」に充てることができます。 検討すべき問い： 松戸市では、AIをどのように学びに活用するのか？AIを活用することで、どのように教員の負担を減らし、子どもと向き合う時間を増やすのか？AIの倫理的な使い方はどのように指導するのか？	施策38（ICTを活用した学びの支援の充実を図ります）	p.73	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。AIを活用した学びの拡張に関するご指摘は、今後の教育を考える上で重要な視点として受け止めております。本市では、ICTを活用した学びの支援を計画に位置付けており、子供の理解を深める効果的な活用方法について検討していく必要があると認識しています。また、AIを活用する際には、教育的な効果や倫理面での留意事項にも配慮し、適切な使い方を検討することが求められます。いただいたご意見も参考にしつつ、教職員の負担軽減と子供の学びの充実につながる環境整備に努めてまいります。	なし
14	「特別支援教育の充実」 現状の記述： 特別支援教育の充実に関する施策 考察すべき視点： AIを活用した個別最適な支援と多様なニーズへの対応 特別支援教育について記述されていますが、AIを活用した個別最適な支援を追加すべきです。特別支援教育では、一人ひとりのニーズが異なるため、個別最適な支援が重要です。AIを活用した学習支援ツールや、音声認識・文字認識技術を活用した支援ツールを導入することで、多様なニーズに応じた支援を実現できます。 しかし、AIを活用する際には、AIに依存しすぎないバランスも重要です。AIは「支援を強化するツール」であり、「人間の支援を代替するもの」ではありません。教員や支援員の専門性とAIの技術を融合させることで、より効果的な支援が可能になります。 検討すべき問い： 松戸市では、AIをどのように特別支援教育に活用するのか？多様なニーズにどのように対応するのか？教員や支援員の専門性とAIの技術をどのように融合させるのか？	施策17（すべての子供の可能性を引き出すために、特別支援教育を推進します）	p.48	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。一人ひとりの特性に応じた支援を充実させる上で、AIを活用した学習支援ツールなどの可能性をご指摘いただいた点は、重要な視点として受け止めております。本市では、特別支援教育の充実を図ることを計画に位置付けており、さらなる支援の質向上に向けて検討していく必要があると認識しています。AIの活用に当たっては、教育的効果や倫理面での留意事項を踏まえつつ、教職員の専門性と適切に組み合わせることが重要であり、今後の検討の参考としてまいります。	なし
15	「いじめ・不登校等の未然防止・早期対応」 現状の記述： いじめ・不登校等の未然防止・早期対応に関する施策 考察すべき視点： AIを活用した早期SOS検知システムとEBPM（証拠に基づく政策立案）、そして実践事例の活用 いじめ・不登校対策について記述されていますが、AIを活用した早期SOS検知システムを追加すべきです。従来のいじめ・不登校対策は、教員の「勘や経験」に頼ることが多く、問題が深刻化してから発見されることが少なくありませんでした。 松戸市の現状を確認すると、以下の点が明らかになりました： 1. AIを活用した早期SOS検知システムが未導入：欠席日数、保健室利用回数、学習ログ、アンケート回答のテキスト（感情分析）などをAIが統合分析し、いじめや不登校のリスクが高まった段階で教員にアラートを出す仕組みが未整備です。 2. 近隣自治体の実践事例がある：柏市では「生成AIによる悩みチャット相談」を試験導入し、生徒の満足度93.6%という結果が出ています。これは、AIが教育のみならず生徒の心のケアにも利用可能であることを示す事例です。 3. プライバシー保護の体制が重要：個人情報の誤設定による閲覧可能化の事例を踏まえ、AIを活用する際のプライバシー保護体制の構築が不可欠です。 GIGA端末（タブレット）を活用し、子供の心の変化をAIで早期に検知して教員をサポートする仕組みを導入することで、問題を抱える子供が孤立する前に、プッシュ型で支援を届けることができます。 大阪府枚方市では、「ぽーち」のようなアプリを活用し、子供が日々の気分をスタンプなどで入力することで、子供の心の変化を早期に検知しています。松戸市でも、欠席日数、保健室利用回数、学習ログ、アンケート回答のテキスト（感情分析）などをAIが統合分析し、いじめや不登校のリスクが高まった段階で教員にアラートを出す仕組みを導入すべきです。 しかし、AIを活用する際には、プライバシーの保護や、AIに依存しすぎないバランスも重要です。AIは「教員をサポートするツール」であり、「教員を代替するもの」ではありません。教員の経験則とAIの予兆検知を融合させることで、より効果的な支援が可能になります。 具体的な提言： - AIを活用した早期警戒システム（いじめ・不登校・疾患等）の導入：チャットボットや自然言語処理で匿名相談の把握。柏市の実績を参考に、小中学校で生徒の悩み相談AIを試行。 - 「心の健康観察」アプリの導入：大阪府枚方市などで導入されている「ぽーち」のようなアプリを使い、子供が日々の気分をスタンプなどで入力。AIが統合分析し、リスクが高まった段階で教員にアラートを出す。 - データ管理ポリシーの全校展開と更新：個人情報、写真、アンケート等のデジタルデータに関するポリシー・ガイドラインを整備し、定期更新。教員・ICT支援員・児童生徒に周知。 検討すべき問い： 松戸市では、AIをどのように早期SOS検知に活用するのか？柏市のようなAI相談システムはどのように導入するのか？プライバシーをどのように保護するのか？教員の経験則とAIの予兆検知をどのように融合させるのか？	施策10（安心感をもって学べる環境の充実を図ります（いじめ防止対策））	p.41-42	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。いじめや不登校の兆しを早期に捉え、適切な支援につなげることは大変重要であると認識しております。本市では、子供の状況を丁寧に把握し、迅速に支援につなげる体制の充実を計画に位置付けております。AIの活用については、教育的効果やプライバシー保護への十分な配慮が不可欠であり、留意点を踏まえた上で、適切な在り方を研究してまいります。	なし
16	「キャリア教育の推進」 現状の記述： キャリア教育の推進に関する施策 考察すべき視点： 地域産業と直結したキャリア教育とAIを活用したスキル・ギャップ分析 キャリア教育について記述されていますが、地域産業と直結したキャリア教育を追加すべきです。従来のキャリア教育は、「将来の夢を考える」という抽象的な内容が多く、実際の仕事との接点が少ないことが課題でした。 松戸市内の企業と連携し、実際の仕事を体験する機会を増やすことで、キャリア教育をより実践的なものにできます。また、AIを活用したスキル・ギャップ分析により、「このスキルを学べば、この企業のこの求人にマッチする」という具体的なキャリアパスを提示できます。 これは、単なる「キャリア教育」を超えた、「キャリア教育とリカレント教育の連携」という視点です。中学生や高校生の段階から、地域企業が求めるスキルを理解し、そのスキルを身につけるための学習計画を立てることで、将来のキャリア形成を支援できます。 検討すべき問い： 松戸市では、地域企業とどのように連携してキャリア教育を進めるのか？AIを活用したスキル・ギャップ分析はどのように実現するのか？キャリア教育とリカレント教育をどのように連携させるのか？	施策6（市立高校改革を推進します）	p.37-38	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。本市では、キャリア形成を支える教育環境の充実を計画に位置付けており、実社会とのつながりを生かした学びの機会の在り方について、引き続き検討していく必要があると認識しております。また、AIを含む新たな技術の活用につきましても、その効果や留意点を踏まえながら、子供の将来の可能性を広げる取組の参考としてまいります。	なし

NO.	提出意見	該当箇所	該当ページ	市の考え方	計画の修正
17	「コミュニティ・スクールの推進」 現状の記述： コミュニティ・スクールの推進に関する施策 考察すべき視点： 導入スピードの加速とカリキュラムへの統合 コミュニティ・スクールについて記述されていますが、導入スピードの加速とカリキュラムへの統合を追加すべきです。コミュニティ・スクール（学校運営協議会）は、単なる「学校のお手伝いボランティア」ではありません。地域住民、保護者、先生が「熟議（じゅくぎ）」と呼ばれる深い話し合いを行い、「この地域で育つ子供たちに、どんな力をつけさせたいか」という目標（ビジョン）を共有し、授業の内容（カリキュラム）作りから一緒に参画する仕組みです。 現在、令和7年度の設置校は1校のみですが、鳥取県南部町のように、CSと地域学校協働活動が一体となり、10年一貫の独自カリキュラム（まち未来科）を構築する視点が必要です。単なる「設置」だけでなく、「CSを通じたカリキュラム・マネジメント（教育内容の創造）」までの道筋を明確にすべきです。 しかし、CSを設置する際には、単に「設置する」だけでなく、「どのように活用するか」が重要です。「行事の手伝い」レベルにとどまらず、地域の達人が授業を持ったり、地域の課題を教材にしたりするなど、学校の授業と地域の活動を一体化させる（社会に開かれた教育課程）視点を、よりスピーディーに全校へ広げることが期待されます。 検討すべき問い： 松戸市では、コミュニティ・スクールの設置をどのように加速させるのか？CSを通じたカリキュラム・マネジメントはどのように実現するのか？地域の達人をどのように授業に招くのか？	施策24（学校・家庭・地域の連携や多様な人材の幅広い活躍により地域の教育力を向上させます）	p.56-57	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。コミュニティ・スクール（学校運営協議会）は、学校・家庭・地域が協働し、子供の学びを多面的に支える仕組みとして重要であると認識しております。本市でも、その推進に向けた取組みを計画に位置付けており、地域の多様な人材が学校教育に参画できる環境づくりに取り組んでいく必要があると考えております。いただいたご指摘も参考としながら、学校と地域が連携し、教育活動の充実につながるよう、今後の在り方を研究してまいります。	なし
18	「地域学校協働活動の推進」 現状の記述： 地域学校協働活動の推進に関する施策 考察すべき視点： 地域資源を活用した学びの拡張と社会に開かれた教育課程の実現 地域学校協働活動について記述されていますが、地域資源を活用した学びの拡張を追加すべきです。松戸市には、市内4大学や博物館・図書館などの豊富な社会資源があります。これらを教育と結び付けることで、学校の学びをより豊かにできます。 愛知県安城市の事例のように、図書館を文化拠点として整備することで、学校団体向け貸出冊数が約2.8倍に増えたという成果も期待できます。これは、単なる「本を借りる場所」ではなく、「学びの拠点」として機能することで、学びの質と量の両方が向上した事例です。 地域の専門家を授業に招くことで、学校の学びをより実践的なものにできます。また、地域の課題を教材にすることで、探究学習をより実践的なものにできます。 検討すべき問い： 松戸市では、地域資源をどのように教育と結び付けるのか？市内4大学や博物館・図書館との連携体制はどのように構築するのか？地域の専門家をどのように授業に招くのか？	施策24（学校・家庭・地域の連携や多様な人材の幅広い活躍により地域の教育力を向上させます）	p.56-57	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。地域の多様な資源を活用した学びの充実は、子供の理解を深め、学習意欲を高める上で重要な視点であると認識しております。本市では、地域学校協働活動を通じて、学校・家庭・地域が連携しながら子供の学びの幅を広げていくことを計画に位置付けております。いただいたご意見も参考としつつ、地域とともに学ぶ教育環境づくりに努めてまいります。	なし
19	「学校図書館の充実」 学校図書館について記述されていますが、デジタル図書館との連携を追加すべきです。電子書籍の導入や、公共図書館との連携を強化することで、24時間いつでも学べる環境を整備できます。 また、AIを活用したレコメンド機能により、児童生徒の興味・関心に合った本を推薦できます。	施策13（読書活動を充実します）	p.43-44	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。本市では読書活動の充実を計画に位置付けており、多様な資料へのアクセス環境についても今後の在り方を検討してまいります。AI活用についても、効果や留意点を踏まえつつ参考としてまいります。	なし
20	「読書活動の推進」 読書活動について記述されていますが、AIを活用した読書支援を追加すべきです。AIを活用した読書レコメンドや、読書感想文の作成支援など、AIを活用することで読書活動をより充実させられます。	施策13（読書活動を充実します）	p.43-44	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。本市では読書活動の充実を計画に位置付けており、多様な資料へのアクセス環境についても今後の在り方を検討してまいります。AI活用についても、効果や留意点を踏まえつつ参考としてまいります。	なし
21	「学校給食の充実」 学校給食について記述されていますが、食育と地域連携の強化を追加すべきです。地域の農家と連携し、地産地消を推進することで、食育と地域理解を同時に進められます。また、給食を通じて多様な文化を学ぶ機会を設けることで、グローバル化に対応した教育を実現できます。	施策15（健やかな体を育む学校体育・学校健康教育を推進します）	p.46-47	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。地域の食材を活用した食育や、給食を通じた食文化理解の促進は、子供の健やかな成長を支える上で大切な視点であると受け止めております。いただいたご意見は今後の参考とさせていただきます。	なし
22	「学校安全の確保」 学校安全について記述されていますが、AIを活用した安全対策を追加すべきです。AIを活用した不審者検知システムや、防災訓練のシミュレーションなど、AIを活用することで学校安全をより強化できます。	施策44（学校の危機管理と非常時の学びを保障するための取り組みを推進します）	p.78	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。AIを活用した不審者検知や防災訓練の高度化など、安全対策に関するご提案は、学校の危機管理を考える上で参考となる視点として受け止めております。本市では、学校安全の確保を計画に位置付けており、必要な対策の在り方について引き続き検討してまいります。	なし
23	「教員の資質・能力の向上」 現状の記述： 教員の資質・能力の向上に関する施策 考察すべき視点： AIを活用した教員支援と働き方改革の連動 教員の資質向上について記述されていますが、AIを活用した教員支援を追加すべきです。AIを活用した事務作業の自動化により、教員が子どもと向き合う時間を増やすことができます。また、AIを活用した授業分析により、教員の指導力を客観的に評価し、改善につなげられます。 しかし、AIを活用する際には、AIに依存しすぎないバランスも重要です。AIは「教員をサポートするツール」であり、「教員を代替するもの」ではありません。教員の専門性とAIの技術を融合させることで、より効果的な教育が可能になります。 検討すべき問い： 松戸市では、AIをどのように教員支援に活用するのか？教員の専門性とAIの技術をどのように融合させるのか？AIを活用することで、どのように教員が子どもと向き合う時間を増やすのか？	施策40（校務DXを推進します） 施策43（生き生きと学び続ける教職員を育みます）	p.75、p.77-78	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。本市では、教員の資質向上を図る取組を計画に位置付けており、業務の効率化や指導の改善につながる支援の在り方について、今後検討していく必要があると認識しています。AIの活用については、効果や倫理面の留意点を踏まえつつ参考としてまいります。	なし
24	「働き方改革の推進」 現状の記述： 働き方改革の推進に関する施策 考察すべき視点： DXと働き方改革の統合によるwell-beingの向上 働き方改革について記述されていますが、DXと働き方改革の統合を追加すべきです。DXを進めることで、働き方改革と教育の質向上を両立できます。 長野県の事例のように、クラウド型校務支援システム導入により年間約17万時間の残業時間削減を見込んでいます。これは、DXが働き方改革と連動することで、教職員のwell-beingの向上と教育の質向上を両立した事例です。 しかし、DXを進める際には、単にシステムを導入するだけでなく、教職員の意識改革やスキルアップも必要です。また、DXによって削減された時間を、どのように教育の質向上に活用するかという視点も重要です。 検討すべき問い： 松戸市では、DXと働き方改革をどのように統合するのか？削減された時間を教育の質向上にどのように活用するのか？教職員の意識改革やスキルアップはどのように進めるのか？	施策42（教職員の働き方改革を進め、働きやすい勤務環境を整備します）	p.77	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。DXと働き方改革を一体的に進めることは、教職員の負担軽減と教育の質向上の双方に寄与する重要な視点であると受け止めております。本市では、教職員が働きやすい環境づくりを計画に位置付けており、校務支援システムの活用により業務の効率化や校務の改善に向けた取組の在り方について検討していく必要があると認識しています。DXや働き方改革の推進により、削減された時間を活用して教職員が本来の教育活動に専念できるようになると考えております。DXの活用効果や留意点を踏まえつつ、研修や業務効率化の取組等を積み重ね、教職員の意識改革やスキルアップに努めてまいります。	なし

NO.	提出意見	該当箇所	該当ページ	市の考え方	計画の修正
25	「リカレント教育の推進」 現状の記述： リカレント教育の推進に関する施策（「試行的な講座の実施」や「調査研究」という段階） 考察すべき視点： 産業界とのエコシステム構築と「3すくみ」の打破 リカレント教育について記述されていますが、産業界とのエコシステム構築を追加すべきです。松戸市の計画では、リカレント教育について「試行的な講座の実施」や「調査研究」という段階に留まっていますが、これでは「3すくみ」の状態を打破できません。 現在、日本では「個人（何を学べばいいか分からない）」「企業（社員が学んでも評価しない・辞めてしまうのが怖い）」「大学・教育機関（ニーズが分からない）」がお互いに様子見をしている「3すくみ」の状態が課題です。これを打破するためには、単に講座を開くだけでなく、AIを活用して「松戸市内企業のスキルニーズ」と「市民の学習歴」をマッチングさせ、就労・キャリアアップに直結させる仕組みを構築すべきです。 デジタルバッジ（学習歴の証明）の導入により、学んだスキルを客観的に証明できるようにすることで、「学んでも意味がない」という意識を変えられます。また、文部科学省のポータルサイト「マナパス」等の既存システムと連携し、レコメンド機能で個人の関心に合った講座をプッシュ通知することで、学習意欲を高めることができます。 しかし、リカレント教育を進める際には、単に「スキルを身につける」だけでなく、「スキルを活かす場」も必要です。地域企業と連携し、「このスキルを学べば、この企業のこの求人にマッチする」という具体的なキャリアパスを提示することで、学習意欲を高めることができます。 検討すべき問い： 松戸市では、産業界とのエコシステムをどのように構築するのか？デジタルバッジはどのように導入するのか？「3すくみ」の状態をどのように打破するのか？学習と就労をどのように結びつけるのか？	施策27（リカレント教育を進めます）	p.62	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。本市では、リカレント教育の推進を計画に位置付けており、今後検討していく必要があると認識しています。AI等の活用などいただいたご意見は、その効果や留意点を踏まえ、取組の参考としてまいります。	なし
26	「社会教育施設の充実」 社会教育施設について記述されていますが、文化拠点としての機能強化を追加すべきです。愛知県安城市の事例のように、図書館を文化拠点として整備することで、来館者数が従来の2倍以上に増えたという成果が期待できます。松戸市でも、図書館・美術ギャラリー・ホール・プラネタリウム機能を含む文化複合施設を整備することで、市民のあらゆる学びや活動を支える拠点を創出できます。	施策48（松戸駅周辺の文化拠点整備を推進します）	p.82	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。関係部局と連携しながら、研究を進めてまいります。	なし
27	「図書館サービスの充実」 図書館サービスについて記述されていますが、デジタル図書館の拡充を追加すべきです。電子書籍の導入や、AIを活用したレコメンド機能により、24時間いつでも学べる環境を整備できます。また、学校図書館との連携を強化することで、児童生徒の読書活動をより充実させられます。	施策13（読書活動を充実します） 施策29（図書館機能を向上させ、文化・社会教育施設と連携した学びやすい環境づくりを進めます） 施策30（市民のための学習相談体制の充実を図ります）	p.43、p.63-65	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。デジタル図書館の活用等は、利用機会の拡大や学びの充実に向けた重要な視点として受け止めております。本市では、図書館サービスと読書活動の充実を計画に位置付けており、多様な学びを支える環境づくりの在り方について、今後検討していく必要があると認識しています。いただいたご意見も参考としてまいります。	なし
28	「博物館・美術館の充実」 博物館・美術館について記述されていますが、デジタルアーカイブの構築を追加すべきです。デジタルアーカイブを構築し、オンラインで閲覧できるようにすることで、いつでもどこでも学べる環境を整備できます。また、AIを活用した展示のレコメンドや、バーチャルツアーの提供により、より多くの人に文化に触れる機会を提供できます。	施策34（博物館の展示リニューアルにより、松戸の歴史的価値を伝えます）	p.67-68	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。博物館におけるデジタルアーカイブの充実等は、文化への理解を深める上で重要な視点として受け止めております。今後の取組の検討において参考としてまいります。	なし
29	「文化財の保護・活用」 文化財について記述されていますが、デジタルアーカイブと教育活用を追加すべきです。文化財をデジタルアーカイブ化し、学校教育で活用することで、地域の歴史や文化をより深く学べるようになります。また、AIを活用した文化財の解説や、バーチャルツアーの提供により、より多くの人に文化財に触れる機会を提供できます。	施策33（文化財の保存や活用による歴史的・文化的資源への興味・関心を高めます）	p.66-67	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。文化財のデジタルアーカイブ化等は、地域の歴史理解を深める上で有意義な視点として受け止めております。今後の取組の検討において参考としてまいります。	なし
30	「スポーツの振興」 スポーツについて記述されていますが、データ活用による競技力向上を追加すべきです。スポーツデータを分析し、科学的根拠に基づいた指導を行うことで、競技力を向上させられます。また、AIを活用したトレーニングプログラムの作成により、個別最適な指導を実現できます。	施策15（健やかな体を育む学校体育・学校健康教育を推進します）	p.46-47	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。スポーツについては、学校体育の充実を図る立場から、データ活用による指導改善の視点は参考となるものと受け止めております。いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。	なし
31	「文化芸術の振興」 文化芸術について記述されていますが、デジタル技術を活用した文化芸術の創造を追加すべきです。AIを活用した音楽や美術の創作支援、バーチャルリアリティを活用した舞台芸術の体験など、デジタル技術を活用することで、新しい文化芸術の創造を支援できます。	施策37（市民の文化・芸術活動や自主的な学びの充実を図ります）	p.69-70	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。デジタル技術やAIを活用した文化芸術の創作支援は、新たな学びや表現の機会を広げる視点として受け止めております。いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。	なし
32	「地域コミュニティの活性化」 地域コミュニティについて記述されていますが、デジタルプラットフォームの構築を追加すべきです。地域の情報を一元管理し、市民がいつでもアクセスできるデジタルプラットフォームを構築することで、地域コミュニティの活性化を促進できます。また、AIを活用したマッチング機能により、地域の課題解決に取り組む人々をつなげられます。	（該当箇所なし）	（該当箇所なし）	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。地域との連携を進める上で、いただいたご意見は参考とさせていただきます。	なし
33	「多文化共生の推進」 多文化共生について記述されていますが、AIを活用した言語支援を追加すべきです。AI翻訳ツールや、多言語対応の学習支援ツールを導入することで、外国にルーツを持つ子どもたちへの支援を充実させられます。また、多様な文化を学ぶ機会を設けることで、グローバル化に対応した教育を実現できます。	施策21（児童生徒の多文化理解を進めます） 施策22（帰国・外国人児童生徒への支援を充実させます）	p.52-53	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。AI翻訳等を活用した言語支援は、多文化理解や外国にルーツを持つ子供への支援を考える上で有意義な視点として受け止めております。いただいたご意見は、今後の取組の参考としてまいります。	なし
34	「防災教育の推進」 防災教育について記述されていますが、AIを活用した防災シミュレーションを追加すべきです。AIを活用した防災シミュレーションにより、様々な災害シナリオを体験し、防災意識を高められます。また、実際の災害データを分析し、地域の特性に応じた防災教育を実現できます。	施策44（学校の危機管理と非常時の学びを保障するための取り組みを推進します）	p.78	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。本市では安全教育や学校の危機管理を計画に位置付けており、いただいたご意見は今後の取組の参考としてまいります。	なし
35	「環境教育の推進」 環境教育について記述されていますが、データ活用による環境課題の可視化を追加すべきです。環境データを可視化し、児童生徒が環境課題を理解しやすくすることで、環境教育をより実践的なものにできます。また、AIを活用した環境データの分析により、地域の環境課題を発見し、解決策を考える探究学習につなげられます。	（該当箇所なし）	（該当箇所なし）	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。環境教育については本計画に個別の記載はありませんが、子供の学びを広げる視点として、いただいたご意見は参考とさせていただきます。	なし
36	「情報教育の推進」 情報教育について記述されていますが、AIリテラシーの育成を追加すべきです。生成AIの活用方法や、AIの倫理的な使い方などを学ぶことで、次世代の情報リテラシーを育成できます。また、AIと協働して課題を解決する経験を通じて、AIを活用した問題解決能力を育成できます。	施策9（多様性の理解と思いやりのある豊かな心を育む道徳教育・人権教育を推進します）	p.41	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。AIの活用が教育に与える影響は重要な視点と受け止めております。本市でもICTを活用した学びを計画に位置付けており、生成AIを含む新たな技術やAIリテラシー教育の在り方について、国の動向等を踏まえながら今後の参考としてまいります。	なし
37	「学校施設の整備」 学校施設について記述されていますが、スマートスクールの実現を追加すべきです。IoTを活用した環境管理や、AIを活用した安全管理など、デジタル技術を活用することで、より快適で安全な学校環境を実現できます。	施策46（適正規模・適正配置を含め、これからの魅力ある学校施設のあり方の検討を進めます） 施策47（小中学校施設の老朽化対応及び学習環境の整備を進めます）	p.80-81	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。IoTやAIを活用した学校施設の高度化に関するご提案は、学習環境の充実を考える上で参考となる視点として受け止めております。いただいたご意見は、今後の検討の参考とさせていただきます。	なし
38	「文化施設の整備」 文化施設について記述されていますが、文化複合施設の整備を追加すべきです。図書館・美術ギャラリー・ホール・プラネタリウム	施策48（松戸駅周辺の文化拠点整備を推進します）	p.82	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。関係部局と連携しながら、研究を進めてまいります。	なし

NO.	提出意見	該当箇所	該当ページ	市の考え方	計画の修正
39	第3章第1節「検証改善サイクル（PDCAサイクル）の実践」 現状の記述： 検証改善サイクル（PDCAサイクル）の実践に関する記述 考察すべき視点： データ活用によるPDCAサイクルの加速とEBPM（証拠に基づく政策立案） PDCAサイクルについて記述されていますが、データ活用によるPDCAサイクルの加速を追加すべきです。従来のPDCAサイクルは、データの収集や分析に時間がかかり、改善サイクルが遅いことが課題でした。 各種データをダッシュボード化し、リアルタイムで可視化することで、PDCAサイクルを加速させられます。また、AIを活用したデータ分析により、課題を早期に発見し、迅速に対応できるようになります。 しかし、データを可視化するだけでは不十分です。データから「何を読み取るか」「どのように活用するか」が重要です。また、データを可視化することで、教職員の負担が増えるのではなく、むしろ減るような仕組みが必要です。AIを活用したデータ分析により、教職員がデータから課題を発見し、対応策を考える時間を創出できるのではないでしょうか。 検討すべき問い： 松戸市では、どのようなデータをどのように可視化するのか？AIを活用したデータ分析はどのように進めるのか？PDCAサイクルをどのように加速させるのか？	第3章 第1節 検証改善サイクル(PDCAサイクル)の実践	p.83	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。データ活用による課題把握や改善の視点は重要であると受け止めております。本市では施策の検証と改善を継続的に行うこととしており、いただいたご意見は、今後の取組を検討する上での参考とさせていただきます。	なし
40	第3章第2節「新たな教育上の課題への対応」 現状の記述： 新たな教育上の課題への対応に関する記述 考察すべき視点： AIを活用した課題の早期発見と他自治体の取り組みの分析 新たな課題への対応について記述されていますが、AIを活用した課題の早期発見を追加すべきです。教育上の課題は、時代の変化とともに新たに生まれることがあります。こうした課題を早期に発見し、迅速に対応することが重要です。 AIを活用したデータ分析により、新たな教育上の課題を早期に発見し、迅速に対応できます。また、他自治体の取り組みをAIで分析し、効果的な施策を迅速に導入できるようになります。 しかし、AIを活用する際には、AIに依存しすぎないバランスも重要です。AIは「課題を発見するツール」であり、「課題を解決するもの」ではありません。人間の判断とAIの分析を融合させることで、より効果的な対応が可能になります。 検討すべき問い： 松戸市では、AIをどのように課題の早期発見に活用するのか？他自治体の取り組みをどのように分析するのか？人間の判断とAIの分析をどのように融合させるのか？	第3章 第2節 新たな教育上の課題への対応	p.83	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。新たな教育上の課題を早期に把握し対応する視点は重要であると受け止めております。本市では、継続的な課題の検証と改善を進めることとしており、いただいたご意見は今後の参考とさせていただきます。	なし
41	幼児教育・保育との連携（就学前教育の充実） 現状の記述： 小中学校の教育に焦点が当たっているが、就学前教育との連携が弱い 考察すべき視点： 就学前教育と小学校教育の接続強化 幼児教育・保育は、その後の学習の基盤を形成する重要な段階です。しかし、現在の提言では小中学校の教育に焦点が当たっており、就学前教育との連携が弱い印象を受けます。 具体的な提言： - 幼保小連携の強化：幼稚園・保育所と小学校の連携を制度化し、就学前教育の成果を小学校教育にスムーズにつなげる仕組みを構築。松戸市独自の「接続カリキュラム」を策定。 - 就学前教育の質の可視化：就学前教育の質を可視化し、保護者や地域に情報を提供。教育の質向上が子育て世代の転入促進につながる。 - 幼児教育におけるICT活用の検討：GIGAスクール構想の成果を就学前教育にも展開し、デジタルリテラシーの基礎を幼児期から育成。 検討すべき問い： 松戸市では、就学前教育と小学校教育をどのように接続するのか？幼保小連携の具体的な仕組みはどのように構築するのか？新規の接続カリキュラム策定だけでなく、既存のカリキュラムを活用し、教員同士の情報交換や合同研修から始める段階的なアプローチも検討すべきか？	施策5（幼保こ小連携を推進します）	p.37	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。就学前教育と小学校教育の円滑な接続は重要な視点と受け止めております。本市では、幼保小連携の推進を計画に位置付けており、いただいたご意見は、今後の連携の在り方を検討する際の参考とさせていただきます。	なし

NO.	提出意見	該当箇所	該当ページ	市の考え方	計画の修正
42	目標7「教育デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進」 施策40「校務DX推進」　施策38「ICT活用した学びの支援」 ■意見・提案内容: 松戸市を「AI先進教育自治体」と位置づけ、教育委員会職員・教職員へのセキュアな生成AI活用環境整備を計画に明記すべきです。 ■現状のままでは発生する重大なリスク: 【リスク1: 無秩序なAI利用による情報漏洩】 現在、生成AIは誰でも無料で利用可能です。ガイドライン未整備のまま職員が個人判断で無料版ChatGPT等を業務利用すれば、以下のリスクがあります:・個人情報や機密情報の意図しない外部送信 ・児童生徒の情報が学習データとして利用される可能性 ・教育委員会としての統一的なセキュリティ管理の欠如 【リスク2: AIリテラシー不足による事故多発】 職員がAIの特性を理解せず利用することで発生するリスク:・生成AIの「ハルシネーション」(もっともらしい嘘)による誤情報の拡散 ・著作権侵害リスク(生成物が既存著作物に類似) ・保護者・市民への不適切な情報提供 これらの事故発生時の対応コスト(謝罪・訂正・信頼回復)は計り知れません。 【リスク3: 非効率業務の継続による機会損失】 AI活用で効率化できる業務を手作業で続けることによる損害:・議事録作成に会議時間の4倍の時間を費やす(※当別町事例参照) ・定型文書作成に膨大な時間を浪費 ・教職員が「子供と向き合う時間」を事務作業に奪われ続ける→施策42「働き方改革」の目標達成困難 ・ヒューマンエラーによる誤字脱字、内容の不備 【リスク4: 他自治体との競争力低下】 現在、横須賀市、札幌市、神戸市等の先進自治体は既に全庁的AI導入を完了しています。松戸市が対応を遅らせた場合:・優秀な教職員・職員が先進自治体へ流出 ・「時代遅れの自治体」というイメージによる移住先候補からの脱落 ・非効率な業務による市民サービスの質低下 ・教育DX後進地域として児童生徒の将来的な競争力低下 特に教育分野では、子供たちが「AIを使いこなせない大人」から指導を受けることになり、実践的なAIリテラシー教育が不可能です。 ■提案する具体的施策: 上記リスクを回避し、むしろ松戸市の強みとするため、以下を計画に追加: 【1. セキュアなAI環境の整備】(リスク1への対応) ・教育委員会職員・教職員向けに個人情報保護に配慮した生成AI環境を導入 ・LGWAN経由またはAzure OpenAI等のセキュア環境構築 ・AI活用ガイドラインの策定と全職員への周知徹底 ・利用ログ管理による適切な運用監視 【2. 全職員向けAIリテラシー研修の実施】(リスク2への対応) ・生成AIの特性(ハルシネーション、著作権等)の理解促進 ・セキュリティリスクと対策の教育 ・プロンプトエンジニアリング基礎研修 ・失敗事例の共有と学習文化の醸成 【3. 業務効率化による教育の質向上】(リスク3への対応) ・議事録作成、保護者向け文書作成、授業準備資料の作成支援 ・先行事例では作業時間を1/3~1/4に削減 ・削減した時間を「子供と向き合う時間」へ振り向け ・施策42「働き方改革」の具体的実現手段として位置づけ 【4. 実践を活かしたAI教育の展開】(リスク4への対応) ・職員・教職員の実務経験を活かした児童生徒へのAIリテラシー教育 ・「大人が使いこなす姿」を見せる実践的教育 ・言語活用科(情報分野)へのAI活用・AI倫理の組み込み ・松戸市を「AI先進教育自治体」としてブランディング ■先行自治体の実績: ・横須賀市: 全職員ChatGPT導入(2023年~) ・札幌市: 全職員対象研修1000名実施、既存契約内で追加コスト抑制 ・湖西市: 議会答弁作成で従来の1/3の作業時間、年間約100時間削減 ・神戸市: 全国初の生成AI条例制定、全職員Copilot導入 ・当別町: 議事録作成時間を1/4に削減 ・北海道: 残業15%削減のKPI達成手段として全庁導入 これらは全て2023~2024年に実施されており、松戸市が今から開始しても既に「後発組」である点を認識すべきです。 ■実現可能性とコスト: ・既存のMicrosoft 365等の契約範囲での導入も可能 ・先行自治体の公開ガイドラインを参考にすることで開発コスト削減 ・段階的導入(試験導入→部分展開→全庁展開)でリスク管理 ・業務時間削減効果により、中長期的には投資回収可能 ■本計画との整合性: ・施策40「校務DX推進」の具体的かつ即効性のある手段 ・施策42「働き方改革」の実現に不可欠 ・施策38「ICT活用指導力向上」の実践例 ・施策41「教育データ利活用」の基盤整備 ・目標4「インクルーシブ」: AIによる個別最適化学習支援 ・基本理念「ことばを育み」: AIとの対話を通じた言語能力向上 ■まとめ: 生成AIは既に社会インフラとなりつつあり、「導入するかどうか」ではなく「いつ、どのように安全に導入するか」が問われています。無秩序な個人利用を放置するリスクと、計画的導入により得られるメリットを比較すれば、後者が明らかに優れています。令和8年度からの5年間という計画期間中に、この重要な施策が抜け落ちることは、松戸市の教育行政にとって大きな損失です。 ■参考資料: ・横須賀市「ChatGPT全庁導入」事例 ・札幌市「生成AI利活用ガイドライン」 ・総務省「自治体DX推進参考事例集」(2025年6月) ・文部科学省「初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン」(2023年7月) 以上、ご検討のほどよろしくお願いいたします。	施策38（ICTを活用した学びの支援の充実を図ります） 施策40（校務DXを推進します）	p.73-74、p.75	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。生成AIの安全な活用環境や研修の整備に関するご提案は、校務DX（業務効率化）や働き方改革の推進に資する有意義な視点として受け止めております。情報セキュリティ、費用、運用体制等の整理が不可欠であることから、関連部署と連携し、いただいたご意見を今後の取組の参考としてまいります。	なし
43	「文化歴史、生涯学習」「地域共生社会」 3万年前からの文化財として、旧石器時代も含めた人間活動や地形を意識した学習を計画してほしい。市民団体との共催も考えられるのでないか。大人との交流の中で、勉強できることもあると思っています。 地域共生課が所管として行っている「地域つながりの場」は15地区すべてで行われていない。したがって、行われていない地区に対しても、本規定の中で、行われるように記載をしておいた方が良いと思っています。 いろいろな部門から要請があることで、実施していない地区も実施に向けて活動がはいまるのではないでしょうか。 別でありますが、北区十条駅そばにある、北区ジェイトエルという施設は参考になります。3Dプリンターや映像機器、音響機器など予約して使えることで、子供たちの創造性が広がる可能性があると思います。	施策33（文化財の保存や活用による歴史的・文化的資源への興味・関心を高めます）	p.66-67	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。文化財を生かした学習は、子供の学びを深める上で有意義な視点として受け止めております。また、地域の取組や交流の在り方に関するご指摘につきましても、関係部署と情報共有しながら、今後の検討の参考とさせていただきます。いただいたご提案は、学びの機会を広げる視点として活かしてまいります。	なし

NO.	提出意見	該当箇所	該当ページ	市の考え方	計画の修正
44	施策29「図書館機能を向上させ、文化・社会教育施設と連携した学びやすい環境づくりを進めます」 市民の学習機会の確保および地域人材の育成の推進について強く賛同する。私は松戸市の図書館や博物館等を利用して学習・リスキリングに取り組んでいる。 松戸市のサービス利用を通じて、既存施設や運営方法を工夫することで、より効果的に学習環境を改善できる余地があると感じている。 一方で、市の財政状況や公共施設の老朽化対応が課題となっている現状を踏まえると、新たな施設整備や大規模建設に依存せず、既存施設・仕組み・他機関との連携を活用したソフト面中心の改善を優先すべきであると考える。 1.市立図書館サービスの改善 (1) 予約本受取ロッカーの主要駅・公共施設への設置 既存の駅構内や商業施設などに、24時間・非対面で予約本を受け取れるスマートロッカーを設置することで、閉館時間に間に合わない現役世代の利便性向上を期待できる。 (2) 休館日の分散化 市立図書館と県立西部図書館がともに月曜日休館であるため、市民が利用できない日が重なっている。市立図書館の休館日を他曜日へ分散することで、市民の利用機会を確保すべきである。 (3) 分館開館時間の見直し（上記(1)が難しい場合の代替案） 多くの分館は17時閉館であり、勤務者や学生が利用しにくい。平日は11:30～19:00など時間帯を後ろへシフトすることで利用者層拡大が見込まれる。 (4) AIレコメンド機能による個別最適な学びの促進 貸出履歴や関心キーワードに基づき、次に学ぶべきステップに最適な書籍や、市内で開催される関連講座をAIが推奨する仕組みを構築し、市民のリスキリングをデータ面から支援できる。 (5) テーマ別集中展示・閲覧拠点の設置 分館方式は地域アクセスの利点がある一方、蔵書が分散し、利用者が偶然の本との出会いを得にくい。余剰公共施設等を活用し、館外倉庫資料の閲覧を可能にするとともに、毎月テーマ（NDC区分等（例：4.自然科学＞49.医学薬学））を設定し、関連書籍を集約展示・貸出する仕組みを設けることを提案する。 (6) オンライン蔵書検索への所蔵館表示強化 Myライブラリの本棚一覧段階で所蔵館を表示することで、来館時に利用可能図書を判断しやすくなると考える。 (7) 他館横断検索との連携強化 検索結果が市内に存在しない場合、自動的にカーリルローカル（千葉県）検索へ連携し、他自治体図書館の所蔵確認を容易にすることを提案する。 (8) リクエスト申請のデジタル補助 紙のリクエストカード記入の負担軽減のため、Myライブラリ上でリクエスト情報（ISBN等）を事前に作成し、来館時に職員へ提示する方式の導入を提案する。これにより、市外図書館からの借り入れの可否を利用者が事前に確認できるようになる（ただし、他市図書館からの借り入れは必ずしも保証されない）。なお、オンラインでの即時申請については、リクエストの乱用防止の観点から段階的な導入が望ましい。 (9) 自動車駐車場利用の適正化 分館の限られた駐車台数を有効活用するため、市内在住・通勤通学者以外の駐車を抑制・適正化し、市民・通勤通学者が利用しやすい環境整備を検討すべきである。 (10) 地域書店等との共存支援 市内の書店が減少しており、市民の教育を受ける機会の喪失につながることが懸念される。図書館で所蔵できない書籍（書き込み式の問題集等）を例示すると共に、市内書店を紹介するなど、地域書店との共存を図る取り組みを提案する。 学習や資格試験の講座・テスト受験の機会を提供する学校・事業者の紹介を行うことを提案する（情報更新は原則年1回などとし、市が情報の正確性を保証できないことについて市民の理解を求める）。	施策29（図書館機能を向上させ、文化・社会教育施設と連携した学びやすい環境づくりを進めます） 施策30（市民のための学習相談体制の充実を図ります）	p.63-65	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。市民の学習機会の確保と地域人材の育成に向け、図書館サービスや学習相談体制の充実は重要な視点と受け止めております。ご提案いただいた運営面の工夫や、既存施設・他機関との連携の在り方につきましては、財政状況や運営体制への影響も踏まえつつ、今後の検討の参考とさせていただきます。	なし
45	施策32「多様な主体との連携・協働を推進します」 2.大学図書館との連携強化 市内大学図書館の利用について、市立図書館カードによる利用（紹介状等は不要）や相互貸借を進め、市民の専門書へのアクセス向上を図るべきである。	施策29（図書館機能を向上させ、文化・社会教育施設と連携した学びやすい環境づくりを進めます） 施策30（市民のための学習相談体制の充実を図ります） 施策32（多様な主要との連携・協働を推進します）	p.63-65	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。大学図書館との連携強化は、市民の学習機会の拡大に資する視点として受け止めております。いただいたご提案は、今後の連携の在り方を検討する際の参考とさせていただきます。	なし
46	施策32「多様な主体との連携・協働を推進します」 3.千葉県立図書館との連携強化 (1)県立図書館書籍の利用 千葉県立図書館所蔵の書籍は、市立図書館のそれに比べて、アカデミックな書籍等、市立図書館で所蔵していない書籍が多い。現状の予約・リクエストカードの提出がなくとも、市立図書館同様の手続きで県立図書館図書を借入可能にする。 (2)千葉県立図書館の電子書籍閲覧サービスの普及啓発 当該サービスの利用促進を通じて、市民が必要とする書籍へのアクセス環境を改善する。	施策29（図書館機能を向上させ、文化・社会教育施設と連携した学びやすい環境づくりを進めます） 施策30（市民のための学習相談体制の充実を図ります）	p.63-65	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。県立図書館との連携強化は、市民の学習機会の拡大に資する視点として受け止めております。いただいたご提案は、今後の連携の在り方を検討する際の参考とさせていただきます。	なし
47	目標6「人生100年時代を見据えた生涯学習の推進」 4.教育・学習情報のプッシュ通知強化 (1)アプリ「マチイロ」の活用 同アプリを活用し、市主催および関連団体の学習イベント情報を一元的に配信できる仕組みを整備するとともに、キーワード登録等関心分野の詳細設定や松戸市オンライン申請システムへの円滑な遷移を可能にすることで、市民の参加促進が期待できる。 (2)千葉県やハローワーク等他公共団体との連携 他公共団体が市内・近隣地域で実施している教室・イベントのうち松戸市民が参加可能なものについてもアプリ「マチイロ」でのプッシュ通知を行うことにより、幅広い分野で教育を受ける機会の確保が期待できる。	施策37（市民の文化・芸術活動や自主的な学びの充実を図ります）	p.69-70	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。学習情報の発信や周知の在り方に関するご提案は、市民の学習機会の拡大に資する視点として受け止めております。いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。	なし
48	施策41「教育データの分析・利活用を推進します」 5.図書館蔵書の「活用データ」のオープンデータ化 (1) 「教育データの分析・利活用」を 、生涯学習分野にも適用 どのような層（年齢や職業、性別等）の市民が、どのような本を借りているか、どのような講座を求めているかを匿名化して分析・公開し、市民が市役所の施策を単に批判するのではなく、「自ら必要な施策」をデータに基づいて提案できる環境を整備する。 (2) 学習席の情報発信 生涯学習・リスキリングに必要な学習席の情報は各館に分散しており、且つ具体情報が少ないと感じる。本館やひがまつテラス、青少年会館、すまいる等、市や関連団体が運営する学習席の利用方法・条件の具体情報を一元的にネット閲覧（またはリンク設定）できるようにすることで学習活動の促進を期待できる。また、学習席の混雑状況をネットでリアルタイム表示することで、働く世代のリスキリング支援の効果を高めることが期待できる。 (3) 学習ポイントの可視化 各講座の受講や博物館・図書館等の利用日・回数の可視化（本人の利用状況や利用者全体でのランキング・同じ目的を持つ人の間での比較・分析を可能とする）を行い、生涯学習への意欲向上を期待できる。	施策28（豊かな教養を育む機会の充実を図ります） 施策29（図書館機能を向上させ、文化・社会教育施設と連携した学びやすい環境づくりを進めます） 施策30（市民のための学習相談体制の充実を図ります）	p.62-64	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。図書館蔵書データの活用や学習環境に関する情報発信の工夫は、学びを支える視点として受け止めております。関係部署との連携についても、今後の検討の参考とさせていただきます。	なし
49	平成29年4月1日に施行された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」で規定された学校運営協議会の努力義務化から間もなく10年を迎える中、近隣市では設置が確実に進んでいるものの、松戸市では、いまだ設置校が1校に留まっています。 施策の目標として、「市内全体での実施に向けて研究し、設置促進及び活動支援を行います。」とありますが、具体的な数値目標が示されていないため、設置が進まないのではないかと危惧します。 地域と学校の組織的・継続的な連携・協働体制が確立のため、本計画の期間である令和１２年度までの全校設置を目指すべきと考えます。全校設置が難しい場合は、設置率もしくは設置校数の数値目標を設定することにより、確実に推進していただくことを望みます。	施策24（学校・家庭・地域の連携や多様な人材の幅広い活躍により地域の教育力を向上させます）	p.56-57	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。学校運営協議会の設置促進に関するご指摘は、地域と学校の連携を進める上で重要な視点として受け止めております。施策に基づき、市内全体での導入に向けた研究や活動支援を進めてまいります。いただいたご意見は今後の検討の参考とさせていただきます。	なし

NO.	提出意見	該当箇所	該当ページ	市の考え方	計画の修正
50	施策7「市松生の学びを充実させる学習環境の整備を進めます」 令和の日本型学校教育に対応した生徒の学びや教職員を支える環境を整備し、「市松エフェクト」の実現をめざすとあります。教職員を支える環境整備の一環として、県立校教員より過酷な勤務現状を改善する取組みを追加すべきと考えます。	施策7（市松生の学びを充実させる学習環境の整備を進めます）	p.38-39	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。市立高等学校の学びを支える上で、教職員が働きやすい環境づくりは重要な視点として受け止めております。教職員の働き方改革の観点も踏まえながら、引き続き、生徒の学習環境の整備を進めてまいります。	なし
51	施策9「多様性の理解と思いやりのある豊かな心を育む道徳教育・人権教育を推進します」 情報モラル教育に留まらず、情報リテラシー教育の充実を図るべきと考えます。	施策9（多様性の理解と思いやりのある豊かな心を育む道徳教育・人権教育を推進します） 施策38（ICTを活用した学びの支援の充実を図ります） 施策39（教職員のICT活用指導力を向上させます）	p.41、p.73-75	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。情報の扱い方や信頼性の判断といった情報リテラシーは、一人一台端末の活用等を通じて日頃の学習の中で育成しなければならない重要な視点と受け止めております。よって、情報モラルを内面化した情報リテラシーを育んでいけるよう努めてまいります。いただいたご意見は今後の参考とさせていただきます。	なし
52	施策18「不登校児童生徒の状況に応じた支援を充実させます」 主な事業にあるフリースクールの月額利用料金の一部補助は、R８年度3学期まで実施期間を延長しましたが、継続を前提に本計画に明記してよいのでしょうか。教室に入ることはできないけれど別室（校内教育支援センター？）に登校している児童生徒への支援体制も強化すべきと考えます。	施策18（不登校児童生徒の状況に応じた支援を充実させます）	p.48-50	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。不登校の児童生徒に対する学びの継続支援は重要な視点と受け止めております。フリースクールの活用支援や、教室以外で安心して過ごせる校内の場を生かした支援については、個々の状況に応じた在り方を検討しつつ、支援・制度の効果検証や財政状況等も踏まえ、適切な支援の充実に努めてまいります。	なし
53	施策26「部活動の地域展開を進めます」 体験格差がより一層広がることのないよう充分に配慮して取り組んでいただきたいです。	施策26（部活動の地域展開を進めます）	p.59	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。体験格差に配慮しつつ、部活動の地域展開の在り方に関する検討を進めてまいります。	なし
54	施策38「ICTを活用した学びの支援の充実を図ります」 生成AI普及により社会変化のスピードが加速しています。ICTリテラシー教育はもとより、デジタルシチズンシップ教育を行うべきと考えます。	施策38（ICTを活用した学びの支援の充実を図ります）	p.73-74	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。ICTリテラシーやデジタル社会での適切な在り方を学ぶ視点は重要であると受け止めております。いただいたご意見は今後の参考とさせていただきます。	なし
55	施策42「教職員の働き方改革を進め、働きやすい勤務環境を整備します」 教員の業務量の適切な管理と健康、福祉を確保するための措置を実施するための計画を策定するにあたっては、校務DXに伴う持ち帰り業務の発生に十分に配慮することを願います。 併せて、労働基準法に則った休憩取得を徹底する対策を講じていただきたいです。	施策42（教職員の働き方改革を進め、働きやすい勤務環境を整備します）	p.77	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。教職員の業務量の管理や健康面への配慮は、働き方改革を進める上で重要な視点として受け止めております。いただいたご意見にも留意しながら、令和8年2月に策定した「松戸市立学校の教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画」に基づき取組を進めていけるよう環境整備に努めてまいります。	なし
56	施策43「生き生きと学び続ける教職員を育みます」 教員の療養休暇、病気休暇の増加を踏まえると、メンタルヘルス対策が甘いと思います。 ストレスチェックの実施回答率を上げるのはもちろんですが、高ストレス判定者率の低減を目標に掲げ、職場環境の改善を図るべきではないでしょうか。	施策43（生き生きと学び続ける教職員を育みます）	p.77-78	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。教職員の健康やメンタルヘルスへの配慮は、働き続けられる環境づくりの点から重要な視点として受け止めております。ストレスチェックの結果等にも留意しながら、職場環境の改善に向けた取組を進めてまいります。	なし
57	施策46「適正規模・適正配置を含め、これからの魅力ある学校施設のあり方の検討を進めます」 学校施設の在り方を考えるにあたっては、在籍児童生徒の「数」をベースにした「規模」や「配置」を検討する前に、一人一人の健全な育ち・教育ニーズにフォーカスする必要があります。近隣他市で導入済みの学びの多様化学校・小規模特認校のほか、イエナプラン教育校等、松戸の子どもたちに必要な学校形態を模索していただきたいです。 公共施設再編にあたっては、コミュニティ・スクール推進の観点からも、現在のコミュニティ形成に配慮し、学校同士の統廃合だけに視点を固定せず、市民センターや支所機能との複合化も視野に検討していただきたいです。また、校区と町会・自治会区を同期させることも考慮に入れるべきと考えます。	施策46（適正規模・適正配置を含め、これからの魅力ある学校施設のあり方の検討を進めます）	p.80	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。学校施設の在り方を検討する際には、児童生徒一人ひとりの学びや育ちを支える観点が重要であり、多様な教育ニーズに応じた学校の姿に関するご提案も有意義な視点として受け止めております。本市では、適正規模・適正配置の検討に当たり、地域の実情にも配慮しながら魅力ある学校づくりを進めていく必要があると認識しており、いただいたご意見は関係部署とも共有の上、今後の検討の参考とさせていただきます。	なし

NO.	提出意見	該当箇所	該当ページ	市の考え方	計画の修正
58	１．総括意見（要旨） 私は、本市が策定を進めている「（仮）学びの松戸モデル（松戸市教育振興基本計画・第1 期）（案）」について、 現場の学びの深化と具体的実践につながる計画であること自体は評価する一方、計画書案が抽象的であるため、学校現場・教師・保護者・地域が具体的に行動できる形での方針や施策の明確化を求めるものです。 そのうえで、現行計画案にもとづく理念を保障しつつ、「学びの松戸モデル」としてより実効性の高い教育環境構築につながるよう、以下の点について意見を述べます。 ２．計画全体についての意見 1. 理念と実践の接続の明確化 現在の計画案では、「生きる力」や「主体的な学び」など抽象的理念が示されていますが、それを 学校現場の授業デザインや日々の学習活動につなげる方針・目標が不明確です。 たとえば、協働学習や探究学習といった具体的な教育実践モデルを参照し、それが計画のどの部分にどのように位置付けられるのかを明記することが必要です。 特に、国内で実践されている 学びの共同体研究会 のような協同的学び・対話的学習のモデルは、計画案の理念とも整合性が高く、教育現場で具体的に効果を発揮している事例として参考になると考えます。 2. 計画の見える化・評価基準の設定 現行案には、計画評価の方法や基準、そして成果指標が十分に示されていません。計画を策定するだけでなくPDCA（計画・実行・評価・改善）サイクルが回る形での評価体系を整備することが必要です。 特に、学習者の主体性・協働性などの質的な指標について、市民・保護者からも評価可能な評価軸の提示が望まれます。 ３．授業・学習の実践についての意見 1. 「学びの共同体」の視点の導入 計画案には現代的な学習理念が掲げられていますが、具体的な授業設計につながる文言が不足しています。 私は、教育現場において 「子どもが互いに聴き合い、対話・協働で学ぶ活動」 を促進する仕組みの明示的な導入を提案します。これは、単にICT機器を用いる個別学習だけではなく、対話的学習、協同学習といった 実際に学習者同士の相互作用を育む設計が必要となるからです。 2. モデル校・試行実施の位置づけ 計画書案には全市的な実行方針が示されていますが、一部学校をモデル校として試行的に導入し、その成果・課題を全体に反映するよう段階的に進める体制づくりが必要です。 こうしたモデル校の存在は、理念に留まらない「実践知」を蓄積し、全体への水平展開に役立つと考えます。 ４．教員支援・教師の学びについての意見 教師が計画の意図を理解し実践するには、 教員研修・研究会・授業研究の機会が不可欠です。 そのため、教員同士が共に学び合う仕組み（授業公開・協同研究・同僚的支援体制など）を計画の柱として明記することを要望します。これは教師自身が計画案の理念を理解し、具体的な実践へつなげるために必要な支援です。（学びの共同体研究会の実践参照） ５．地域・保護者・市民との連携についての意見 計画案には生涯学習や地域連携の重要性が述べられていますが、 保護者・市民・地域団体が学びに参画する具体的なコミュニケーション設計が不足しています。 たとえば、学校・家庭・地域が協力して学びの機会を創出する枠組みや、保護者が授業・教育活動に意見を持ち寄れる仕組みの整備を求めます。 これは計画の理念にある「生涯学習社会の実現」に不可欠であり、地域全体で教育を支える土台づくりにつながります。 ６．総括・期待 以上の点を踏まえると、「（仮）学びの松戸モデル」は理念としては高く評価できるものの、現場実践と結びついた計画としてさらにブラッシュアップする余地があると考えます。 今後、計画の最終策定に当たり、 「理念 → 方針 → 実践 → 評価 → 改善」を循環させる教育体系づくり に向けて、具体策・実行可能な方針の明示を強く求めます。 ７．添付（参考）資料 学びの共同体研究所 https://japan.school-lc.com/	第2章 第5節（施策全般） 第3章 第1節（検証改善サイクル(PDCAサイクル)の実践）	p.32-83	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。教育振興基本計画は、全体の方向性を示す性質上、一定の抽象性を伴うものですが、ご指摘のとおり、理念を具体的な学習活動や学校運営につなげていく視点は重要であると受け止めております。本市では、計画に掲げた方針のもと、毎年度策定しております主要施策で事業を具現化しております。いただいたご意見は今後の検討の参考とさせていただきます。	なし
59	（追加提案）学びの松戸モデルの実践段階における具体的アクション提案 松戸市が掲げる「学びの松戸モデル」は、理念提示の段階から、いよいよ実践の段階へ進む時期にあると考えます。 そこで、今後の現場での具体的活動方法について提案いたします。 現在、国内には対話的・協同的な学びを実践している団体として、学びの共同体研究会があります。 この取り組みでは、 ・探究的な学習を基盤とする授業設計 ・児童・生徒一人ひとりが発言する機会を保障する構造 ・他者の発言を「評価」するのではなく「聴く」姿勢を重視する文化づくり といった実践が積み重ねられています。 これは、「主体的・対話的で深い学び」という現在の教育方向性とも高い親和性を持つものです。 【前置きとして：今、松戸市が持つ世代的強み】 現在、学校現場の中心となりつつある30代前後の教員は、いわゆる「ゆとり世代」と呼ばれた世代です。 彼ら・彼女らの多くは、小中学生時代に「総合的な学習の時間」を児童・生徒として体験してきました。 当時の総合学習は、 ・何をどこまで行えばよいのか不明確 ・評価方法が確立していない ・教員側も試行錯誤の連続 という、制度先行型の模索期にありました。 しかし現在は状況が大きく異なります。 ・「主体的・対話的で深い学び」という方向性が明確化 ・GIGA スクール構想によるICT 環境整備 ・探究学習の制度的位置づけの確立 そして何より重要なのは、探究を「やらされた側」ではなく、「体験してきた側」の教員が現場に立っているという点です。 現在の30代教員は、 ・探究的な学びを実体験してきた世代 ・答えが一つではない問いに触れてきた世代 ・話し合い活動や調べ学習を受け手として経験してきた世代 です。 これは教育実践において大きな強みであり、今こそ制度と世代が噛み合う転換点であると考えます。 【提案】学びの共同体的アプローチのアクションプラン化 松戸市の「学びの松戸モデル」という全体構想の中に、授業の具体的構造として「学びの共同体」の仕組みを参考導入することを提案します。 具体的アクション例 1.授業内での“聴き合う文化”の明示的設計 ・発言保障のルール化 ・「正解探し」ではなく「問いの共有」型授業の推進 2.探究課題の質的転換 ・正解が一つに定まらない課題設定 ・協働的に思考を深めるプロセス重視型評価 3.校内授業研究の構造転換 ・個別技術の研修ではなく、授業構造そのものを検討する研究会形式の導入 4.モデル校での段階的導入 ・先行実施校を設定し、成果・課題を可視化 ・実践知を市内へ水平展開 【結び】 制度のみを整備しても、現場が準備できていなければ定着は困難です。 しかし現在は、 ・理念が明確化され ・ICT 環境が整備され ・探究を体験してきた世代が教壇に立っている という、条件が整いつつある時期です。 制度だけでなく、それを担う世代の準備が整ってきた「今」こそ、松戸市が掲げる「学びの松戸モデル」に具体的な授業構造を組み込み、実践へと踏み出す好機であると考えます。 以上の理由から、「学びの共同体」の実践的要素を参考にしたアクションプランの明示を強く要望いたします。	施策1（「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めるため、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させます） 施策2（探究的な学びを推進します）	p.33-34	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。主体的・対話的で深い学びや探究的な学びを充実させる上で、授業づくりや学習環境に関する具体的な視点についてご提案いただいたものと受け止めております。本市では、計画に掲げた方針のもと、授業改善や教員研修の充実、段階的な取組の在り方などについて、学校現場と連携しながら進めていく必要があると認識しております。いただいたご意見は、今後の検討の参考とさせていただきます。	なし
60	該当箇所は特にないようですが、市内の未就学児子育て施策において、待機児童ゼロ実現は素晴らしい成果であり、市職員の方々のご努力の賜物と受け取っております。しかしながらもう一方で、自宅とは離れた場所にある施設が割り当てられたり、兄弟姉妹で違う施設に通わざるをえなかったなど課題もあると保護者さまからの声も聞いております。待機児童の問題は「解決」とするのではなく、今後の更なるきめ細やかな対策、対応に期待しております。	（該当箇所なし）	（該当箇所なし）	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。未就学児の保育に関する取組は市長部局の所管となりますが、ご指摘は大切な視点として受け止めております。いただいたご意見は、関係部署と情報共有の上、今後の参考とさせていただきます。	なし

NO.	提出意見	該当箇所	該当ページ	市の考え方	計画の修正
61	第1章 第6節(7)教育DXの部分において、身体的な健康への影響（視力・姿勢）、学習・能力面への影響（思考力・記憶力）、コミュニケーション能力の低下、集中力・自律性の低下等のデメリットに対応できるよう配慮くださいますよう、進めていただけたらと思います。	第1章 第6節（7)DX（デジタルトランスフォーメーション）	p.6-7	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。教育DXの推進に当たっては、視力や姿勢などの身体面、思考力や集中力等の学習面への影響にも十分配慮していく必要があると受け止めております。端末活用の場面や方法に留意しながら取組を進めてまいります。	なし
62	今までもあった国と県の教育振興基本計画に、第４期において合わせなければならない事情が分かりません。 この計画をつくるために教育振興基本計画審議会を設置したことは、これまでの「学びの松戸モデル」（１９３０年までを想定して教育委員会が策定した)をあえてこの時期に改定し、教育委員会の権限を骨抜きにするものであると感じました。	第1章 第1節 計画策定の趣旨	p.2	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。本計画は、国や県の教育振興基本計画との整合を図りつつ、本市の教育施策を総合的に推進するために策定するものです。また、教育振興審議会は教育委員会の附属機関として調査審議を行うものであり、計画の決定権は教育委員会にあります。いただいたご意見は、今後の運用を検討する際の参考とさせていただきます。	なし
63	第1章 第5節 「計画」案策定過程に当事者参加はあったか？ 教育振興基本計画審議会のほかに行政職による分厚い検討組織が重ねられ,保護者アンケートも参考にしたということですが、実際の学校教育に携わる教職員や社会教育部門の当事者の意見が反映されているのかわかりません。子どもの意見を聞いたそうですが、どう生かされたのかはわかりません。本年度第２回総合教育会議では、「子どもの参加」「子ども議会」が話題になり、大いに希望を感じました。（松戸市では、「成人式」の例がある）。「令和の日本型学校教育」をめざすとして、教職員の負担軽減が喫緊の課題である今、それを担う学校職員の願いや希望が生かされているのか心配です。	第1章 第5節 計画策定のプロセス	p.3	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。教育振興審議会には、学校教育や社会教育の関係者も委員として参画し、委員の立場から様々なご意見をいただきながら審議を進めております。また、子供の意見については、ワークショップでの対話や市立小中学生アンケートの結果を踏まえ、「めざす子供の姿」の検討に反映しております。	なし
64	第1章 第7節 松戸市の課題について 子ども、若者たちの居場所の必要性、社会全体で子どもを育む姿勢、学芸員・司書の確保は切望します。学校はじめ教育施設の再建整備については早めに情報を公開して進めていただきたい。	第1章 第7節（4)文化歴史、生涯学習 施策30（市民のための学習相談体制の充実を図ります） 施策46（適正規模・適正配置を含め、これからの魅力ある学校施設のあり方の検討を進めます）　等	p.10以降、p.63-64、p.80-81	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。子供の居場所づくりや学芸員・司書の確保などの視点は、学びを支える上で重要なものと受け止めております。学校施設の在り方につきましては、関係部署と連携しつつ、適切な情報提供にも留意しながら取組を進めてまいります。	なし
65	第2章 第1節・第2節 行政が市民を指導するという姿勢に違和感あり。あるべき＜子どもの姿＞やあるべき＜市民の姿＞が提示されていますが、市民（子どもを含む）がありのままの姿で学びを求めている時、行政はそれを支えてほしいのです。学ぶことはすべての人の最も基本的な権利（生存権）ですから。	第2章 第1節（松戸の教育のめざす姿） 第2章 第2節（基本理念）	p.25-27	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。めざす姿や基本理念は、市民を指導する趣旨ではなく、本市教育の方向性を示すものです。多様な思いや背景を持つ一人ひとりの学びを尊重し、その力を発揮できるよう、また、お示しする姿や理念が実感いただけるように、各施策の推進に努めてまいります。	なし
66	第2章 第3節・第4節ほか 「道徳心や倫理観」が既存の価値観として学ぶことの前提になっている箇所が目につきます。 現行の「学びの松戸モデル」には見られない表現です。「道徳心や倫理観」に異論はないという前提が気になります。具体的に何を指すのでしょうか。	第2章 第3節（基本的な考え方）	p.28	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。ここで用いている「道徳心や倫理観」は、特定の価値観を前提として押し付けるものではなく、社会の中で他者を尊重して生きるために大切にされる思いなど、多様な考え方を対話の中で深める土台として位置付けており、子供だけでなく大人にも共有されるべき姿勢と考えております。	なし
67	基本施策4 人権教育について 「いじめ重大事態発生件数０」という目標が設定され、様々な工夫が行われることは好ましいと思います。ただ、その根底に「いじめは絶対に許されない行為であること」を徹底的に啓発することという方針があります。つまり、啓発啓蒙が中心の道徳教育であるように思います。子どもたちのいじめが減らない要因の一つに加害者と被害者がすぐに逆転することが言われています。子どもたちの尊厳が日常尊重されていないという背景があるのではないかと思います。一人一人の子どもを尊重する日常的いとなみ（人権尊重教育）が必要です。道徳教育・人権教育の充実/推進という項目が並び、人権教育は道徳教育の一部であるかのような扱いになっていて、「子供の権利擁護」は啓発にとどまってしまう危惧を感じます。かけがえのない存在として、大人が子どもに真摯に向き合うためには、大人の側に余裕がなければなりません。子どもにかかわる大人の人権が守られていることが必要です。学校の教職員を繁忙から解放すること、子どもに向き合えない親をフォローするシステムが必要です。	施策9（多様性の理解と思いやりのある豊かな心を育む道徳教育・人権教育を推進します） 施策10（安心感をもって学べる環境の充実を図ります（いじめ防止対策）） 施策42（教職員の働き方改革を進め、働きやすい勤務環境を整備します）　等	p.41-42、p.77	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。いじめの未然防止・早期対応は、単なる啓発にとどまらず、日常の人権尊重を基盤とした学級経営や指導の充実が重要と受け止めております。本市では、道徳教育と人権教育を相補的に進めるとともに、教職員が子供に向き合えるよう働き方改革の観点にも留意し、取組を進めてまいります。	なし
68	性教育について この計画には全く触れられていません。人権教育の重要な要素です。昨今問題となっている教職員による子どもへの性暴力、子どもたちの間で生じた性にかかわるトラブル（性暴力）にどう対処するのでしょうか。 幼児期から大人に至るまでの「包括的性教育」が推奨されています。大人たちが性について無知であるために見過ごされてきた様々な問題は、人権の問題として意識されるようになりました。国の政策を待っている時間はないと思います。まず教職員の研修から始めるべく計画に入れていただきたいです。	（該当箇所なし）	（該当箇所なし）	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。性に関する正しい理解の促進や、性暴力等の予防・相談体制の周知は、人権を尊重し多様性を認め合う教育を進める上で重要な視点と受け止めております。本市では、学校での保健・人権に関する学びや、教職員の資質向上などの取組を通じ、発達段階に応じた内容の充実と適切な対応に引き続き努めてまいります。	なし
69	基本施策8 日本語を母語としない人（子どもも大人も）に対する、支援（日本語指導など）は拡充する必要があります。民間に頼っている現状ではないでしょうか。日本語指導ができる人材の育成も必要です。	施策22（帰国・外国人児童生徒への支援を充実させます）	p.53	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。日本語を母語としない児童生徒への支援や、日本語指導に関わる人材の育成は重要な視点と受け止めております。本市では計画の方針に沿い、関係機関との連携にも留意しながら、いただいたご意見は今後の取組を進める際の参考とさせていただきます。	なし
70	基本施策11・12について 生涯学習の中心となる図書館の現状は非常にお粗末であることは第５節施策の中に書かれています。第２節基本理念では “文化と教養のまちづくり”とありますが、それを支える図書館をその理念にふさわしいものにしたいものです。２０１５（平成２７）年に策定された「松戸市図書館整備計画」に触れられてもいないのは残念。新中央図書館の建設を断念したのでしょうか。 有資格職員や蔵書数の目標は控えめすぎると思います。	施策29（図書館機能を向上させ、文化・社会教育施設と連携した学びやすい環境づくりを進めます） 施策48（松戸駅周辺の文化拠点整備を推進します）	p.63-64、p.82	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。図書館は生涯学習を支える中核的な施設であり、機能充実に向けた視点は重要なものと受け止めております。本市では、施策に沿って図書館サービスの向上に努めるとともに、関係部署と連携しながら今後の取組の在り方を検討してまいります。	なし
71	第2章 第2節 新たな市史編纂を “文化と教養のまちづくり”といえば、「松戸市史」の改定が必要ではないでしょうか。文化財の保存・活用に力を入れているのはわかりますが、近年の歴史学の発展を反映した新たな市史の編纂が必要だと思います。かつては教育委員会内に「市史編纂室」があったと記憶しています。近隣のいくつかの市においては新しい市史が編纂されているようです。特に近世史、近代史の分野での研究成果を反映した新しい市史が図書館（学校図書館も含め）に入ることで、わが街に対する愛着も深まるでしょう。	（該当箇所なし）	（該当箇所なし）	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。市史編さんは、基本的に資料の調査・収集と研究を十分に蓄積し、計画的かつ長期的な編さん計画に基づくものと考えておりますので、今後の参考とさせていただきます。	なし

NO.	提出意見	該当箇所	該当ページ	市の考え方	計画の修正
72	第1章 第6節ほか DXについて 今回の「計画」の重要なキーワードが、DX(デジタルトランスフォーメーション)であると受け止めました。 主に学校教育の面で「ICTを活用」した「授業改革」「教育データの利活用」「校務DX」「児童生徒の心理状態の把握」まで多方面にDXを活用しようとしていることが読み取れます。しかし、活用できる人材の不足が懸念されます。「ICT支援員の配置」は少なくとも各校に１人は必要と思われます。 一方、一人１台のタブレットを渡されたものの、困惑した家庭も少なくなかったはずです。DXの推進は社会生活のあらゆる分野に広がることが考えられ、タブレットやスマホの前で立ち往生する市民（私もその一人）も少なくないでしょう。市民を対象とした、ICT支援方法も考えていただきたいものです。	施策39（教職員のICT活用指導力を向上させます）	p.74-75	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。DXの推進に当たっては、学校現場のICT活用を支える人材の視点も重要と受け止めております。いただいたご意見は今後の取組を検討する際の参考とさせていただきます。	なし
73	第2章 第3節「基本的な考え方」 基本的な考え方について「社会の変化に対応する方法を・・・必要です。」とありますが、冒頭に掲げる文章としては夢がなく（処世術か？と思いました）大変残念な気がします。また、「道徳観や倫理観…思いやりの心…」と続きますがこの箇所においては、「人権」という言葉を用いていないことに疑問を持ちました。価値観の異なる者同士においては、持ちうる道徳観や倫理観に多少の差異が生じることもあるでしょう。それを互いの「対話」を大切にすることで補完するということなのだと思いますが、それだけでは足りないと思います。「互いの人権を尊重する」という一文が、欠かせないのではないでしょうか。是非、書き加えていただきたいと思います。 「変化にいかに対応すべきか」ばかりが印象に残り、上記と同様残念です。基本的な考え方そのものの再考を願います。 「安全安心」の言葉の使い方が気になります。文脈の中で「安心して学べるように…」であれば怖くありませんが、「安心安全」という言葉だけを取り出して「徹底する」などといわれると、排他的な空気を醸し出す気がします。	第2章 第3節 基本的な考え方	p.28	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。基本的な考え方に掲げている内容は、市民や子供の皆様に一定の価値観を示すものではなく、本市の教育が大切にする方向性を整理したものです。また、人権を尊重し、互いの違いを認め合う姿勢は教育全体を通して重視している視点であり、関連施策の中で丁寧に扱っております。「安心して学べる環境づくり」という趣旨のもと、いただいたご意見も踏まえながら、施策の推進に努めてまいります。	なし
74	施策12「青少年に多様な体験や交流、学びの機会の充実を図ります」 家庭の経済力の違いにより子どもたちの体験格差が問題になっています。施策12は良い取り組みですが、参加できるのは一部の子どもに留まっているのではないかと思うので、体験格差が生じている社会状況にも目を向けた施策を期待します。	施策12（青少年に多様な体験や交流、学びの機会の充実を図ります）	p.42-43	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。体験活動における機会の格差に配慮する視点は重要であると受け止めております。体験格差が生じないよう、今後の取組の在り方を検討してまいります。	なし
75	施策16「望ましい生活習慣を身に付ける取り組みを進めます」 望ましい生活習慣を身に付ける取り組みとありますが、望ましくない生活習慣にならざるを得ない家庭環境にある児童生徒について、福祉との連携等、何かしらの言及が欲しいと思います。 また、施策の目標に具体的な全国平均の値を挙げ、「高めます」と断言されていますが「高めることを目標にします」くらいの表現にしてほしいです。数値目標先行に陥らないためにも	施策16（望ましい生活習慣を身に付ける取り組みを進めます）	p.47	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。生活習慣の形成に当たっては、家庭の状況に応じた支援の視点も重要であると受け止めております。必要に応じて関係機関と連携しながら取組を進めてまいります。なお、施策の目標は、取組の方向性と到達点の目安としてお示ししております。	なし
76	施策17「すべての子供の可能性を引き出すために、特別支援教育を推進します」 インクルーシブ教育についての言及が見つかりませんが、どうなのでしょうか？施策の中に入れてほしいと思います。	施策17（すべての子供の可能性を引き出すために、特別支援教育を推進します）	p.48	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。インクルーシブ教育の考え方は、すべての子供の学びを保障する視点として重要であり、本市では施策17を中心に、その理念を踏まえた特別支援教育の充実を進めております。いただいたご意見は、今後の取組を検討する際の参考とさせていただきます。	なし
77	現代の社会問題の中で、性をめぐる問題がクローズアップされることが多いと思いますが、「包括的性教育」をはじめジェンダー平等につながる教育への言及がないようです。 教育を考える中で必要な視点だと思うので、ぜひ取り上げてほしいと思います。	（該当箇所なし）	（該当箇所なし）	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。性に関する正しい理解の促進や、性暴力等の予防・相談体制の周知は、人権を尊重し多様性を認め合う教育を進める上で重要な視点と受け止めております。本市では、学校での保健・人権に関する学びや、教職員の資質向上などの取組を通じ、発達段階に応じた教育の充実と適切な対応に引き続き努めてまいります。	なし
78	「子供」の表記について 「子供」の表記を「子ども」に変えることはできないでしょうか？「こども家庭庁」「子どもの権利条約」等、「供」を避ける表記が広がっていると思います。	全体	全体	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。本計画における「子供」の表記は、固有名詞を除き、国の教育振興基本計画の表記にあわせて用いておりますので、ご理解いただけますと幸いです。	なし
79	１．インクルーシブ教育の推進と合理的配慮の具体化について（目標4・基本施策7） 意見：国の計画で示された「誰一人取り残されない共生社会」の実現に向け、本市が掲げる「合理的配慮」の提供体制をさらに強化してください。 理由：柏市の計画では専門職の配置が具体用語として目立ちますが、松戸市においても、通常の学級に在籍する発達障害等の子供たちへの支援について、支援員の専門性向上を意識した記述を盛り込むべきと考えます。	施策17（すべての子供の可能性を引き出すために、特別支援教育を推進します）	p.48	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。インクルーシブ教育や合理的配慮の提供体制に関する視点は、すべての子供の学びを支える上で重要であると受け止めております。本市では施策17に基づき、通常の学級に在籍する児童生徒への支援も含め、特別支援教育の充実に努めてまいります。	なし
80	２．目標５学校・家庭・地域の連携と協働の推進について（目標５・基本施策１０） 意見： 計画案にある学校・家庭・地域の連携と協働の推進について単なる情報共有に留めず、松戸市独自の強みである「福祉まるごと相談窓口」等と連動した、家庭単位での包括支援システムとして機能させてください。 理由： 特別な支援が必要な子供の課題は、家庭の経済状況や親のケア負担と密接に関係しています。社会的包摂を掲げる本市だからこそ、縦割り超えた支援体制の具体的なスキームを本計画の中でより明確に示すべきです。	基本施策10（地域の教育力の向上と地域の教育資源の活用の推進）	p.55-59	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。家庭の状況に応じた支援の視点は、子供の学びを支える上で重要であると受け止めております。本市では、学校・家庭・地域の連携の在り方について、関係施策との整合にも留意しながら研究してまいります。	なし
81	３．ICTを活用したアクセシビリティの向上（目標７・基本施策１４・目標11関連） 意見： GIGAスクール構想による一人一台端末を、特に視覚・聴覚障害やLD（学習障害）のある子供たちの「補助具」として最大限活用するため、教職員の指導技術向上と環境整備を優先的に進めてください。 理由： 国の計画でも教育DXと多様なニーズへの対応はセットで語られています。松戸市の「学びの支援」においても、ICTが障害によるバリアを取り除くツールとなるよう、ソフト面での支援拡充を要望します。	施策17（すべての子供の可能性を引き出すために、特別支援教育を推進します） 施策38（ICTを活用した学びの支援の充実を図ります）	p.48、p.73-74	貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。視覚・聴覚障害や学習上の課題に応じてICTを補助的に活用できる環境づくりは、子供の学びを支える上で重要な視点と受け止めております。本市では、教職員のICT指導力向上に努めるとともに、アクセシビリティの観点からのICT活用の在り方について、今後も研究してまいります。	なし